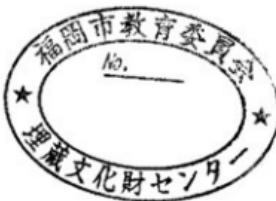


有田周辺遺跡調査概報

福岡市埋蔵文化財調査報告書第43集



1 9 7 7

福岡市教育委員会

「有田周辺遺跡調査概報」正誤表

頁	行	誤	正
2	3	昭和50年度	昭和50～51年度
3	3	本文頁7	本文頁8
4	~	7	8
5	~	7	8
6	遺跡の位置と概要 本文頁9	遺跡の概要 本文頁11	
7	~	9	11
8	~	13	12
9	~	14	15
12	昭和50年度	昭和50～51年度	
13	本文頁9	本文頁10	
5	4 PL.32 (1), (2)	(3) 5号住居址かさとの状態 (4) 7号住居址かまととの状態	
18	PL.46 11) 10号土壙(井戸)	11) 井戸上位空物出土状態	
6	2 PL.61 11) 有田地盤, 小田井地盤	11) 有田地盤, (下) 小田井地盤, (上)	
7	Fig.1 昭和50年度緊急調査	昭和50～51年度緊急癪地盤調査	
8	11 昭和50年度	昭和50～51年度	
15	毛利道友	毛利通友	
17	毛利利武	毛利俊武	
9	9 毛利道友 毛利利武	毛利道友 毛利俊武	
24	毛利道友	毛利通友	
13	16 Fig.1	Fig.2	
PL.32	(4) 6号	(4) 7号	



10号土括(井戸)底 丹塗壺出土状態

有田周辺遺跡調査概報

福岡市西区大字有田周辺緊急発掘調査

昭和 52 年 3 月

福岡市教育委員会

序 文

文化財行政の当面する課題の一つに、埋蔵文化財の保護対策があります。

近年の産業経済の発展に伴う諸開発事業によって、消滅する遺跡の数は増加の一途をたどっており、この傾向は最近の経済事情のなかにおいても変化のない有様であります。

福岡市と例外ではなく宅地造成その他による開発はとどまるところを知らないのが現状であります。

当教育委員会では、やむをえずして保存できない文化財については事前の発掘調査をもって記録保存につとめています。

今回の発掘調査も宅地造成に伴う緊急調査で、国庫補助事業により実施しました。

調査に際しましては、地元及び諸方面のご協力を得て、弥生時代から平安時代に至る古代人の生活址などを検出し、多くの成果をあげることができました。

これも関係者の埋蔵文化財への深いご理解とご協力によるものであって、深甚の敬意を表するものであります。

本報告書が地域住民はもとより、市民各位の文化財保護思想の育成に活用されますと共に、学術研究の分野において役立つことを願うものであります。

昭和52年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 戸 田 成 一

例　　言

1. 本報告書は金融公庫融資付賃貸住宅建設事業に伴い、福岡市教育委員会が国庫補助を得て、昭和50年度事業として実施した福岡市西区有田周辺の緊急調査概報である。
2. 発掘調査は小田部地区を折尾学が行い、有田地区を井沢洋一が行った。
3. 本書掲載の遺構・遺物の撮影は井沢が行い、航空写真については柳沢一男と飛高憲雄（福岡市文化課）が撮影した。
4. 本書掲載の写真旋付は柳沢一男の指導助言を得て、木下洋介氏（福岡大学生）と井沢が行った。
5. 本書掲載の有田遺跡第1、2次調査の写真（PL5～15）は、下條信行氏（九州大学考古学研究室）の協力を得て、九州大学考古学研究室より借用したものである。
6. 第1、2次の調査以来、既に10数年の歳月を経たが、当初において学会に反響を呼んだこの遺跡は、その後、遺跡のもつ数々の問題を未解決のまま消滅の一途を辿っている。今回の調査を契機にし、有田遺跡の残余の部分が継続的に調査されること、更に、遺跡の図上復元を意図して今回の図版に第1、2次調査の遺構写真を収録した。
7. 本書掲載のFig. 4「有田遺跡発掘調査区」は、第1、2次有田遺跡調査報告の「遺跡概要図」をもとに作製した。
8. 本書掲載のFig. 1「有田周辺の弥生時代遺跡」の番号と註1～7までは共通する。
9. 本書で使用する年次は、発掘調査地の年次については西暦を用い、写真撮影年次については年号を用いた。
10. 本書の編集は井沢が担当した。また、柳田純孝、飛高憲雄、塩屋勝利、折尾学、山崎純男、柳沢一男、二宮忠司、力武卓治、池崎謙二、浜石哲也、山崎龍雄、後藤直、沢重臣、横山邦難、山口謙治（福岡市文化課）らの協力を得た。

本文目次

	本文頁
第Ⅰ章	はじめに.....
1.	調査に至る経過.....
2.	発掘調査の組織.....
第Ⅱ章	遺跡の位置と概要.....
1.	小田部地区.....
2.	有田地区.....
第Ⅲ章	おわりに.....

挿図目次

	本文頁
Fig. 1	昭和50年度緊急発掘調査地点.....(縮尺1/5,000)
Fig. 2	有田周辺の弥生時代遺跡.....(縮尺1/25,000)
Fig. 3	有田遺跡(1976年) 調査地現況図...(縮尺1/750)
Fig. 4	有田遺跡発掘調査図.....(縮尺1/2,500)
Fig. 5	第1, 第2トレチ士層図.....(縮尺1/40)
Fig. 6	有田遺跡(1976年) 遺構配置図.....(縮尺1/200)

図 版 目 次

- 卷 頭 10号土墳（井戸）底 丹塗壺出土状態
- P L. 1 有田周辺航空写真（昭和50年撮影）
- P L. 2 有田周辺航空写真（昭和21年米軍撮影）
- P L. 3 有田遺跡第1、2次調査地航空写真（昭和43年撮影）
- P L. 4 有田遺跡周辺航空写真（昭和50年撮影）
- P L. 5 (1)29街区（上），31街区（下） 全景 (2)29街区（下），31街区（上） 全景
- P L. 6 (1)29街区 溝 (2)29街区 溝内出土遺物
- P L. 7 (1)31街区 全景 (2)31街区 袋状貯蔵穴
- P L. 8 (1)31街区 溝 (2)18街区 全景，N-S溝
- P L. 9 (1)18街区 E-W溝 (2)17街区 全景
- P L. 10 (1)17街区 溝，住居址 (2)17街区 住居址
- P L. 11 (1)25街区（上），27街区（下） 全景 (2)27街区 2号住居址
- P L. 12 (1)27街区 1号住居址 (2)27街区 3号住居址
- P L. 13 (1)13街区 全景 (2)13街区 住居址
- P L. 14 (1)13街区 住居址 (2)13街区 Pit 3
- P L. 15 (1)25街区 全景 (2)25街区 住居址
- P L. 16 有田遺跡1976年調査地点 遠景航空写真（昭和51年撮影）
- P L. 17 (1)有田遺跡（1976年）調査前の状況 (2)有田遺跡（1976年）近景
- P L. 18 有田遺跡（1976年）全景
- P L. 19 (1)遺跡東半 南から (2)遺跡西半 東から
- P L. 20 (1)3号土墳 (2)6号土墳
- P L. 21 (1)円形住居址群全景 南から (2)第1pit群（住居址） 東から
- P L. 22 第1pit群（上），円形住居址（下） 東から (2)円形住居址 北から
- P L. 23 (1)円形住居址内炉址 (2)円形住居址内遺物出土状態
- P L. 24 (1)第3pit群（下），第4pit群（上） 西から (2)第3pit群 南から
- P L. 25 (1)第4pit群 東から (2)第8pit群 東から
- P L. 26 (1)遺跡東南隅住居址群 西から (2)遺跡東南隅住居址群 北から
- P L. 27 (1)1, 7, 2号住居址 西から (2)2号住居址 北から
- P L. 28 (1)1, 7号住居址 西から (2)8号住居址 西から

- P L. 29 (1) 1号住居址発掘途中
 P L. 30 (1) 1号住居址内遺物出土状態
 P L. 31 (1) 3, 4号住居址 北から
 P L. 32 (1) 3号住居址かまどの状態
 P L. 33 (1) 6号住居址状遺構 西から
 P L. 34 (1) 5号住居址 北から
 P L. 35 (1) 第5pit群 東から
 P L. 36 (1) 3号棟(第6pit群内) 南から
 P L. 37 (1) 第6pit群 南から
 P L. 38 (1) 遺跡西南部遺構群 南から
 P L. 39 (1) 遺跡西南部遺構群 北から
 P L. 40 (1) 4号棟(遺跡西南部遺構群内)
 P L. 41 (1) 1号土壙(井戸)
 P L. 42 (1) 1号土壙(井戸) 遺物出土状態
 P L. 43 (1) 1号土壙(井戸) 井戸材出土状態
 P L. 44 (1) 1号土壙(井戸) 井戸材出土状態
 P L. 45 (1) 10号土壙(井戸) 挖り方セクション
 P L. 46 (1) 10号土壙(井戸)
 P L. 47 (1) 10号土壙(井戸) 本体
 P L. 48 10号土壙(井戸) 遺物出土状態
 P L. 49 (1) 10号土壙(井戸) 底の状態
 P L. 50 10号土壙(井戸) 縦割 北から
 P L. 51 大溝 西から
 P L. 52 大溝セクション (1)西端部
 P L. 53 (1)(2)(3)(4)大溝内遺物出土状態
 P L. 54 (1) 1号小溝
 P L. 55 (1) 9号住居址内11, 12号土壙
 P L. 56 (1) 12号土壙
 P L. 57 (1) 大溝内土壤基
 P L. 58 (1) 2号土壙(柱穴掘り方)
 P L. 59 (1) 第1トレンチ
 (2) 1号住居址発掘完了後
 (2) 1号住居址内遺物出土状態(拡大)
 (2) 3号住居址 西から
 (2) 3号住居址かまどの支脚
 (2) 5, 9号住居址重複状態 南から
 (2) 9号住居址 西から
 (2) 1号棟(第5pit群内) 南から
 (2) 1号土壙(井戸) 周辺pit群
 (2) 2号棟(第2pit群内)
 (2) 遺跡西南部遺構群 東から
 (2) 遺跡北東部遺構群, 5号住居址
 (2) 第7pit群
 (2) 1号土壙(井戸) 壁体部分
 (2) 1号土壙(井戸) 遺物出土状態
 (2) 1号土壙(井戸) 壺出土状態
 (2) 1号土壙(井戸) 井戸材、壺出土状態
 (2) 10号土壙(井戸) 第8層遺物出土状態
 (2) 井戸上位遺物出土状態
 (2) 井戸本体裏込めの状態
 (1)(2) 井戸中位 (3)(4) 井戸底
 (2) 10号土壙(井戸) 底、丹塗壺出土状態
 (2) 中央部 (3) 東端部
 (2) 2号小溝
 (2) 11号土壙
 (2) 4号土壙
 (2) 土壙墓副葬遺物の出土状態
 (2) 発掘作業風景(昭和51年5月撮影)
 (2) 第2トレンチ

P L. 60 (1)第1トレーナ東壁土層

(2)第2トレーナ北壁土層一部

P L. 61 (1)有田地点、小田部地点の現況(昭和52年撮影)

(2)有田遺跡1977年調査予定地

P L. 62 (1)有田地区1977年調査予定地

(2)小田部地区1977年調査予定地



Fig.1. 昭和50年度緊急調査地点（縮尺1/5000）

1. 小田部地点 2. 有田地点
3. 4. 5. 昭和52年度調査予定地

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経過

福岡市西区大字有田所在の有田遺跡は、昭和41年から昭和43年にかけて行われた九州大学考古学研究室の予備調査、第1、2次発掘調査の結果、縄文時代から中世に至る各時代の複合遺跡であり、しかも遺跡が有田・小田部台地に密に分布していることが知られたのである。その後、福岡市が九州随一の都市として発展すると共に、都市化、住宅化の波が市街地近郊に及んだ結果、周辺の自然及び地形の変貌には目を見張るものがあるが、この有田・小田部の台地も例外なく開発が進行し、有田遺跡や周辺の遺跡は年々消滅の一途を辿っている。この現状から、歴史的にも早良平野の経済活動の中心的位置を占めていたと考えられる有田・小田部台地の遺跡の綿密な発掘調査が望まれているところであった。今回、有田・小田部両地区において、昭和50年度金融公庫融資付の個人所有賃貸住宅建設の計画があり、福岡市教育委員会が昭和50年度国庫補助事業として発掘調査を実施した。

昭和50年度発掘調査地

1. 福岡市西区小田部1丁目437, 439-1, 499-2

毛利道友氏所有。面積1,082m²。ほぼ全掘。

調査期間 昭和50年12月8日～昭和51年2月10日

2. 福岡市西区有田1丁目23-1 毛利利武氏所有。面積1,836m²。ほぼ全掘。

調査期間 昭和51年2月16日～昭和51年6月16日

2. 発掘調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会

調査担当 福岡市教育委員会社会教育部文化課埋蔵文化財係

事務担当 志鶴幸弘（主幹）、清水義彦（課長）、三宅安吉（係長）、国武勝利、木村義一、塙田千恵子

発掘担当 折尾学（小田部地区）

力武卓治、井沢洋一（有田地区）

調査指導	考古学	岡崎敬 森貞次郎 藤井功 三島格	(九州大学教授) (九州産業大学教授) (福岡県文化課長) (福岡市歴史資料館長)
	地質学	浦田英夫	(九州大学教授)
	花粉分析学	畠中健一	(北九州大学教授)
	地質古生物学	嶋倉巳二郎	(元奈良教育大学教授)

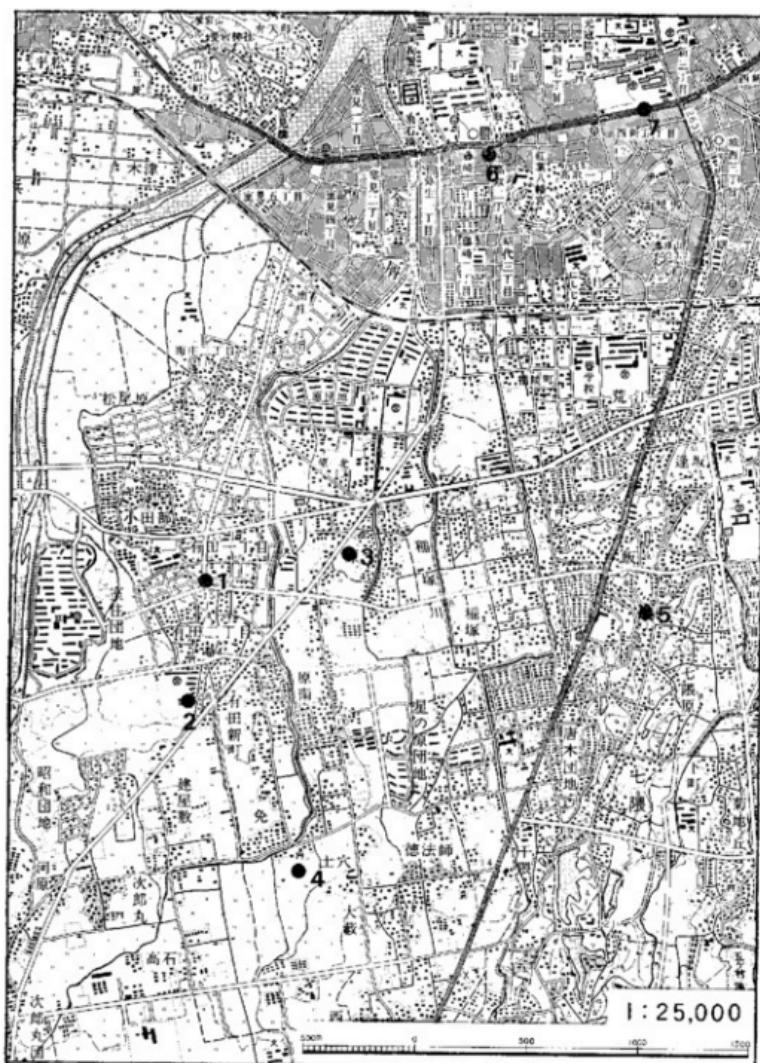
調査協力者

毛利道友, 毛利利武(地主)
 毛利寿利, 毛利久子, 毛利光秋, 毛利富子, 松尾キミ子, 松尾ヒサヨ, 松尾和雄,
 松尾スミ, 添田弥十, 添田トヨ, 小林ツチエ, 小林アキエ, 坂口キミ子, 坂口フミ子,
 岩崎恵美子, 塚本俊二, 下田セト, 清原ユリ子, 松井フユ子, 池田カズエ, 和玉八重子,
 仁田原紹代, 高原尚子, 西原年枝, 真鍋政江, 原ニツ, 津和崎八重子, 野上英治,
 浜地成敏, 松尾修, 柴田タツ子, 山口しげ子, 山口とみ子, 米島シズ, 藤キミ子,
 藤君枝, 原マツ子, 平山正文, 越智浩子(地元協力者, 作業員)
 奥村俊久(別府大学生)
 稲口満朗, 榊村敏文, 松風満, 木下洋介, 田丸雅之(福岡大学生)
 柳田純孝, 飛高康雄, 堀豊勝利, 折尾学, 山崎純男, 柳沢一男, 二宮忠司, 池崎謙二,
 浜石哲也, 山崎龍雄, 後藤直, 沢泉臣, 横山邦継, 山口謙治(福岡市文化課)

資料整理

木下洋介, 田丸雅之, 奥村俊久, 関悦子, 関和子, 松尾陽子, 藤たかえ, 宇美富子,
 八山美鈴子, 木下恵子, 片岡ひとみ

以上の他、発掘調査、資料整理期間中、各方面、各分野の方々から、多くの援助をいただいた。また、毛利道友氏からは心よく事務所を提供していただき、平山正文氏からは給水をお願いした。これらの方々に深くお礼を申し上げる次第である。また、調査期間中、多くの見学者があり、特に周辺の原北小学校、西福岡中学校、西福岡高校の生徒の課外授業として利用していただいた。今後とも発掘調査や展示公開施設を通じて、埋蔵文化財への深い御理解を下されば幸いに思う。



1. 有田遺跡 2. 西尾野高校・庭内遺跡 3. 原・津名崎遺跡 4. 鶴岡遺跡
5. 花山原遺跡 6. 田辺遺跡 7. 西新町遺跡

Fig. 2 有田周辺の弥生時代遺跡

第Ⅱ章 遺跡の概要

福岡市西区大字有田、小田部の位置する台地は室見川の開拓によって形成された早良平野のほぼ真中に存在し、長軸を南北方向に向けた標高15m前後を示す独立中位段丘である。この丘陵は南北の長さ約1km、最大幅0.7kmを計り、台地は有田1、2丁目付近を最高所にして、北へゆるやかに傾斜してゆく。台地の東には金屑川が、台地の西には室見川が流下しているところから、台地の縁辺は侵蝕を受けている。また、台地内に深く切り込んだ比較的浅く、緩やかな谷も幾つか存在している。これらの谷が北東、或いは西方向から切り込むことによって台地の平坦面は数ヶ所のくびれ部を作り、その平坦面は現在の大字有田、小田部の境界附近に於いて最も狭くなっている。この台地のほぼ最高所では、九州大学考古学研究室により、昭和41～昭和43年にかけて有田遺跡が調査されている。この調査では、計11ヶ所、延1,400m²が発掘されている。弥生時代前期と比定されているV字状溝には夜円式（縄文時代晚期）の甕が伴っており、また、古墳時代住居址7軒、溝2本、奈良時代の住居址1軒、炉址3、掘立柱穴1、平安時代の溝1本、中世の溝1本の遺構が検出された。その他、植物遺物として多量の炭化米が出土している。また、台地南端の西福岡高校敷地から前期の甕棺に伴い、細形銅戈が出土しており、小田部から南庄にかけての数ヶ所に及ぶ甕棺墓の存在と細形銅矛、大形の細形銅戈出土も知られる。更に、この有田・小田部の台地が律令時代に設置された田部郷の中心とも考えられている。

今回調査した有田地点は台地の南寄りに、小田部地点は台地の北寄りに位置しており、いずれも地形は平坦な現況を示している。特に有田地点は、先の九州大学による有田遺跡発掘調査地点から北へ約100m内外に近接しており、付近には北西方向約200mに小田部町中の甕棺墓がある。小田部地点は周辺に土器、須恵器、青白磁の散布がみられ、約400m西に弥生中期の甕棺墓が、更に、北400mの南庄では箱式石棺1基が検出されている。また、前述の小田部の町中の甕棺墓とは約200mに近接しており、その間にある国道202号線工事中には、この付近で多量の遺物が出土したという。こうした条件から、今回の発掘調査は小田部地区の遺跡の分布状態、及び有田遺跡の構成と北限の確認作業、及び古代田部郷の中心的位置の確認をめざした。

1. 小田部地区

福岡市西区大字小田部1丁目437、439-1、499-2にあって国道202号線から北へ約25mに位置している。小田部地区は有田地区同様に昭和40年度～48年度にかけて区画整理が行われており、旧地形が失なわれていると考えて良いだろう。発掘調査地の現在の標高は約10m前後を計測し、台地そのものが北へ向って緩やかに傾斜している。また、この調査地点の北10m～30

mには谷が入り込んでおり、本来、この谷頭が調査地に接していたことも考えられる。溝査地の地目は畑であり、賃貸住宅建設計画の申請後に現地の踏査を行った結果、表土面において土器片の散布を確認し、発掘調査を行った。調査は表土である耕作土を除去した後、新規ローム層上面で遺構の検出作業を行ったが、土師器、須恵器片の出土をみるのみで、遺構の確認はできなかった。また、出土遺物の土器片も磨滅が相当みられることから、小田部地区の区画整理事業の際、遺構面が削平された可能性がある。

2. 有田地区

福岡市西区大字有田1丁目23-1に所在する。先の有田遺跡の発掘調査で遺跡のもつ性格がおおよそ把握されている。しかし、遺跡の構成や分布の問題は未解決である。詳しくは有田遺跡発掘調査報告書を参考にされたい。

前回の発掘結果をもとに、今回の発掘調査は有田遺跡の範囲の一端の確認と相連する各時代との構成、及び古代田部郷との関連遺構の検出を目指した。調査地の東端及び西端（現在の市営住宅）に北方向からの谷が切り込んでおり谷頭を形成する。また、この台地は、これら二つの谷に挟まれて北へ緩やかに舌状に分岐する。更に、西方の西福岡中学校方向からも谷が迫っており、この発掘調査地点付近が有田地区の中では第1、2次調査地と比べると台地が比較的東西、及び北に限定されている。こうした南に充分な拠りをもつ地形的条件からも第1、2次調査地との関連を強く印象づけた。調査地の地目は畑で、昭和40年の区画整理では第38街区に属し、旧小字名は畑である。この地点も小田部地点と同様に区画整理によって遺跡上部が削平を受けたものと考えられたので、まず、T字形のトレンチを設定して遺構の状態を知ることにした。その結果、わずかに壁が残った円形住居址、及び調査地東南隅の住居群の存在を確認したため、表土である耕作土の全面の排除を行った。調査地には主軸を磁北方向に定めた10m四方のグリッドを60m×40mの範囲で設定し、遺構の配置或いは遺物の採集を行うことにした。遺構面は新規ローム面に求められ、時期は弥生前期から中世に亘るもので、有田遺跡第1、2次の発掘調査結果に相当した。弥生前期後半には、板付遺跡等でみられる長さ2m前後を測る隅丸長方形の貯蔵穴が認められる。中期には、前半の遺構は明確となっていないが、同時期の遺物は他の遺構への流れ込みの状態で検出されており遺構存在が考えられる。中期中葉から末にかけて円形住居址1軒、及び円形住居址の壁の削平されたと考えられるPit群が6ヶ所あって、いずれも数軒の重複で建て直しを行った形跡を示している。後期前半には方形住居址が1軒存在する。この中期後半～後期初めにかけて井戸が掘られ、遺跡地内での水の供給が行われている。井戸の深さは3m～4mに達する。この井戸と住居址との関係は、何分にも住居址の壁が削平されて明確な時期比定ができないが、円形住居址と、円形住居址と思われるPit群の位置関係が規則的に配置されており、東側の谷に対峙して、その内側に井戸を配しているこ

とから相互の関連を思われる。井戸からは祭祀に用いられたと思われる土器や、青銅利器の鋸範、線刻文のある石材が出土している。弥生後期後半の時期は不明で、その後は古墳時代初期のベッドをもつ長方形の住居址が1軒検出された。また、かまどを設けた住居址は5軒、かまどのみ残存したもの1ヶ所の計6軒が確認され、その内3軒は古墳時代に属するものと考えられるが、他の3軒は削平が著しく時期は不明である。奈良時代から平安時代にかけての掘立の建築物が3棟検出されている。更に平安時代と考えられる大講が東西に直線的に掘られ、発掘調査地点の東側、西側の谷方向へ緩やかに傾斜して丘尾の切断を行った状態を示している。この講幅は4m～6mを計る。この講は他の遺構に比べてあまり削平を受けていらず、このことは、この台地の削平が昭和40年の区画整理以前の古代に行われた可能性をも示している。これらの建築物と大溝は古代田部郷の存在とも大いに関係するものだろう。中世には、この大溝の埋没後に土壠墓が作られ、白磁鉢と刀子1本が副葬されていた。以上のように遺構の概要を述べたが、先の台地の地形から、今回の発掘調査地の北方面への制约、及び、第1、2次調査とはほぼ相似した結果を得たことは、この遺跡が有田遺跡の北端を構成するものといえよう。有田遺跡の遺構面の分布と各時期相互の遺構の構成状態は明らかでなく、今後の有田地区の継続的な調査が期待されよう。

* 註1～註7まではFig.1の「有田門辺の弥生時代遺跡」の番号と共通する。

- 註1 a 福岡市教育委員会「有田古代遺跡調査報告」1967
- b 福岡市教育委員会「有田遺跡」1968
- 〃2 註1 b 収録
- 〃3 原・淡路遺跡発掘調査団、1976年夏発掘調査、現在、報告書作製中
- 〃4 福岡市教育委員会「鈴町遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第37集 1977
- 〃5 註1 b 収録
- 〃6 永倉松尾、燒山猛、「筑前薩崎における弥生遺跡」考古学2-1 1931
- 〃7 福岡市教育委員会、1976年秋発掘調査
- 〃8 池田英夫先生の街教授による。
- 〃9 和名類聚集によると、律令国家は早良平野一帯をサワタノコホリとして定め、六郷（毗伊郷、能解郷、額田郷、早良郷、平群郷、田部郷）を認めた。
- 〃10 聞き込み調査による。家原の新改築の際に合口甕塗が出土した。
- 〃11 住宅地の排水施設々際の際に発見された。
- 〃12 福岡市教育委員会、1973年発掘調査
- 〃13 森 貞次郎、岡崎 敦『福岡県板付遺跡』「日本農耕文化の生成」 1961

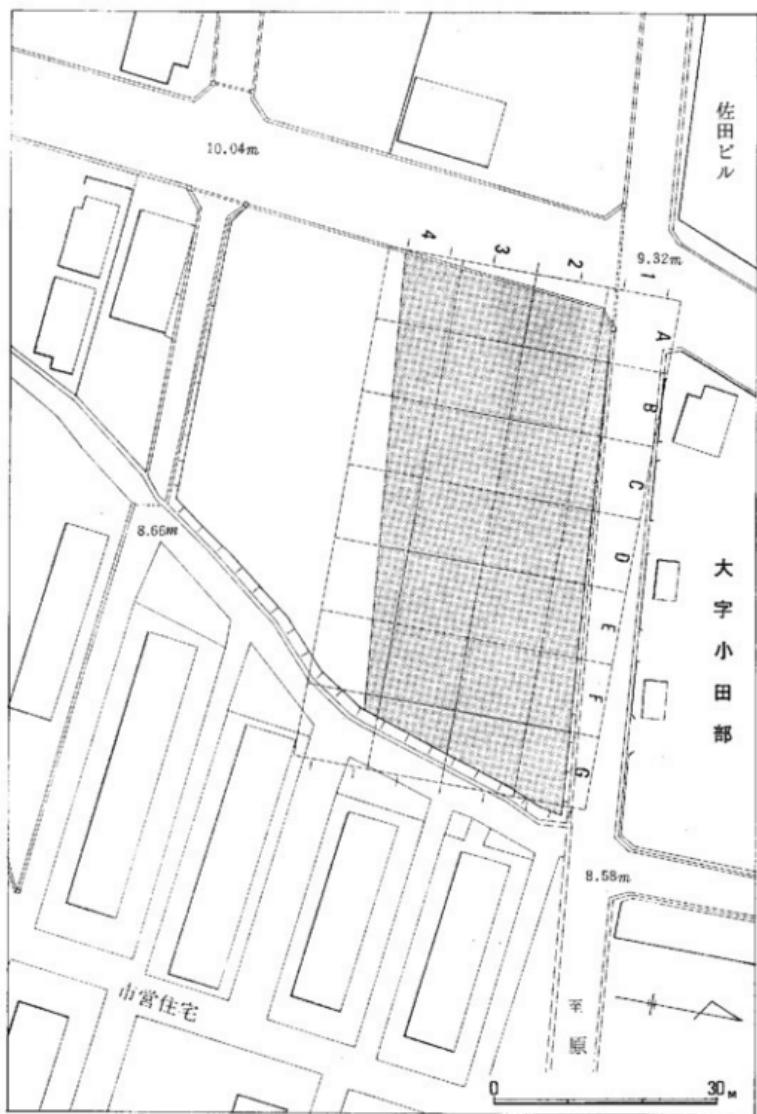
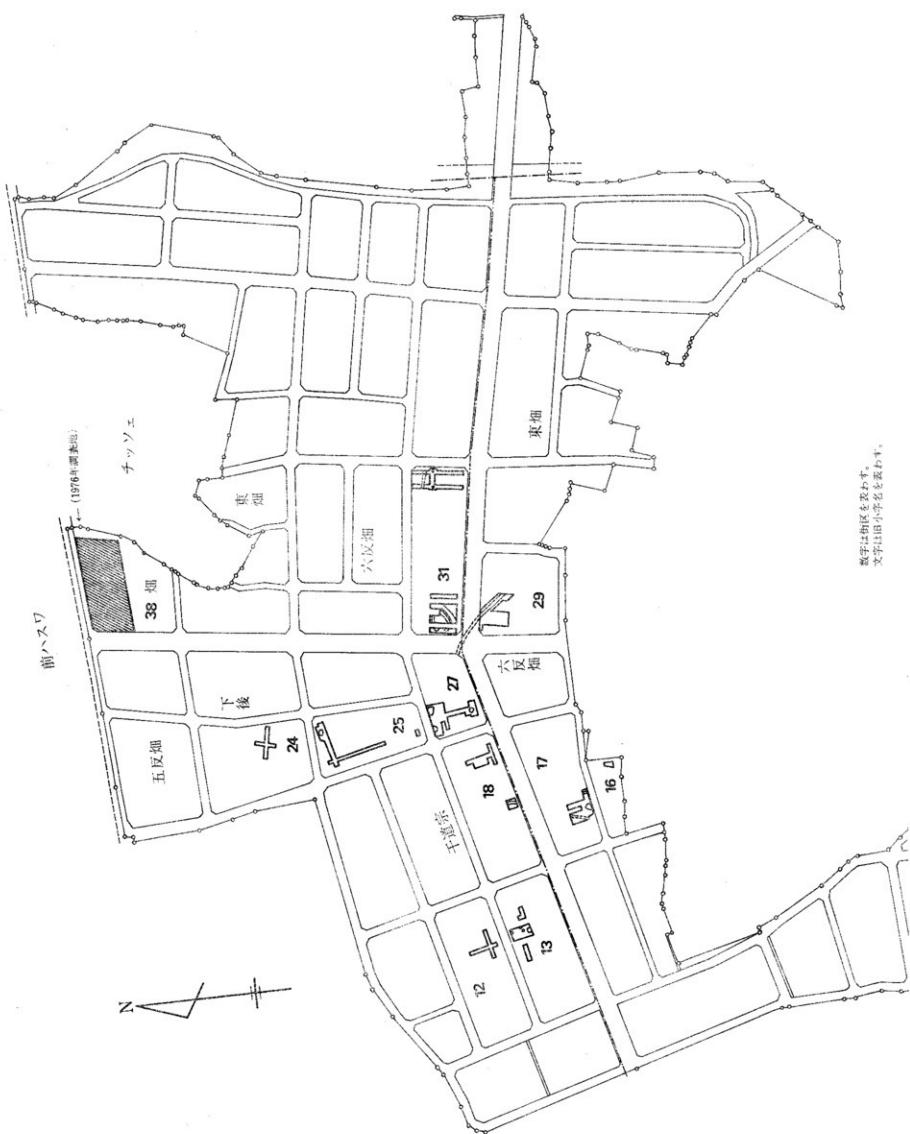
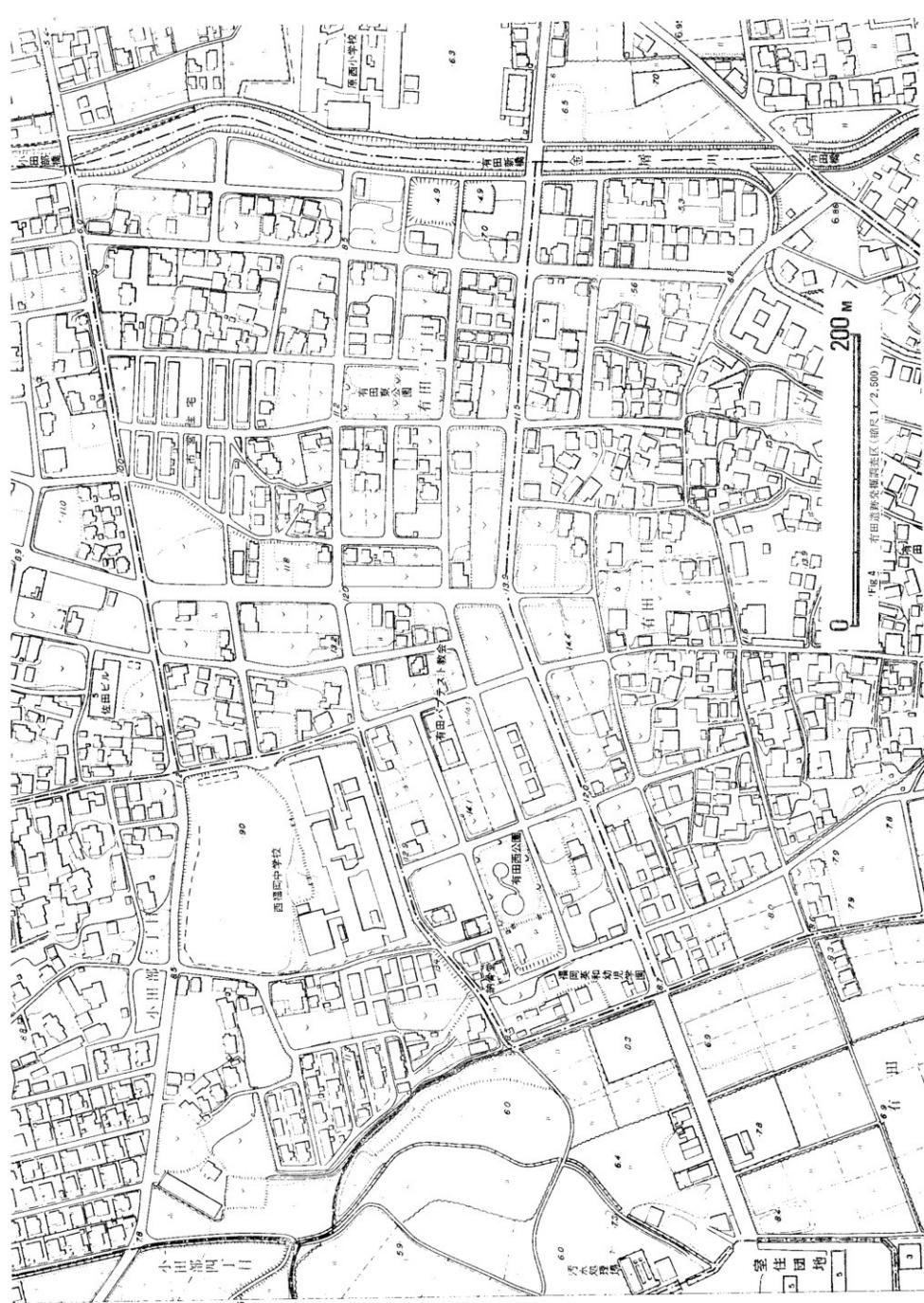


Fig. 3 有田遺跡(1976年)調査地図(縮尺1/750)







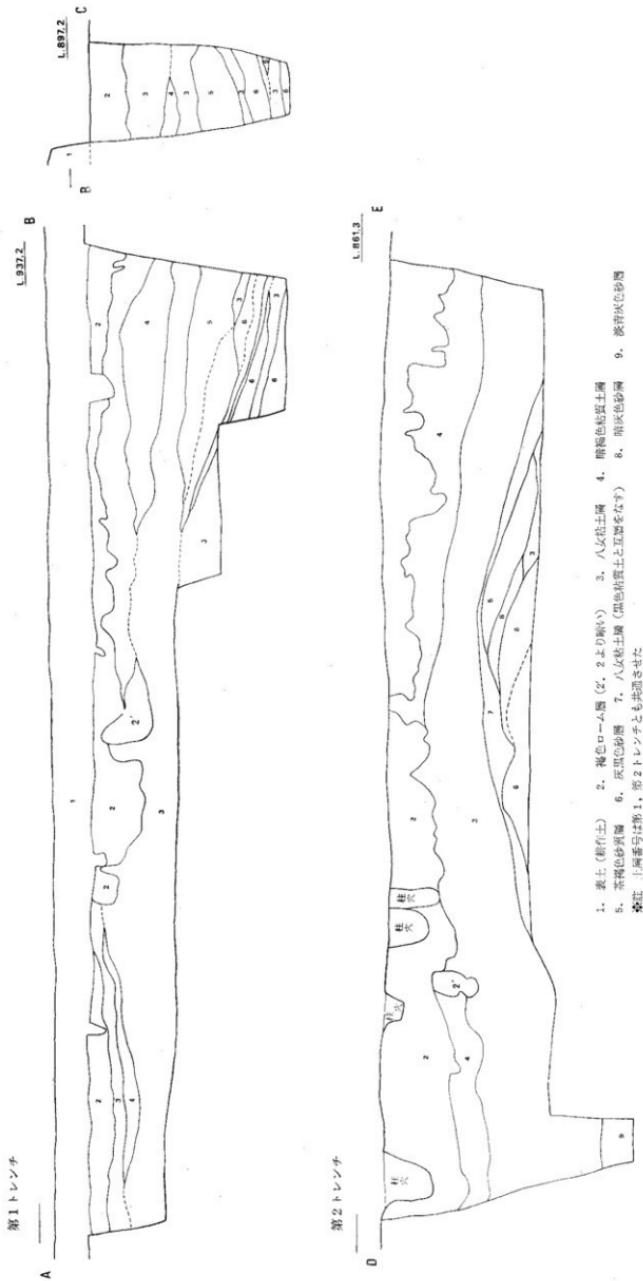


Fig. 5 第1・第2 レンチ土壌図 (縮尺1/40)



Fig. 6 有田道跡 (1975年) 遺構配置図 (縮尺1/200)

第Ⅲ章 おわりに

有田遺跡は10年程前の調査によって遺構密度の高さや時期が長期にわたって連続していること、或いは原始農耕文化の始源の問題や古代製鉄の問題など、学会に大きな波紋を投げかけてきた。ところがその後、福岡市の百万都市化への進行の過程で有田・小田部両地区が、より宅地化、住宅化されてきたが、一方で発掘調査の進展はみられず、この台地に分布する多くの遺跡、遺構が消滅していったことは残念でならない。今回の調査を契機にして、今後、この有田・小田部台地のわずかに開発から残された地域が怠ることなく緻密に調査されてゆくならば、この台地の原始、古代の復原は、まだ不可能なことではないだろう。

今回、まだ寒波の残る2月から梅雨に入った6月中旬までの発掘調査期間中、地元の方々及び作業員の方々から多大の援助と協力をいただきました。特に作業員の方々には迫りくる建設工事の中で、早朝に、或いは日没までたいへん御無理をお願いしました。

発掘調査に関係された方々、地元の方々、作業員の方々に厚くお礼を申し上げます。

昭和52年2月5日



調査員、作業員一同（昭和51年6月）

図 版



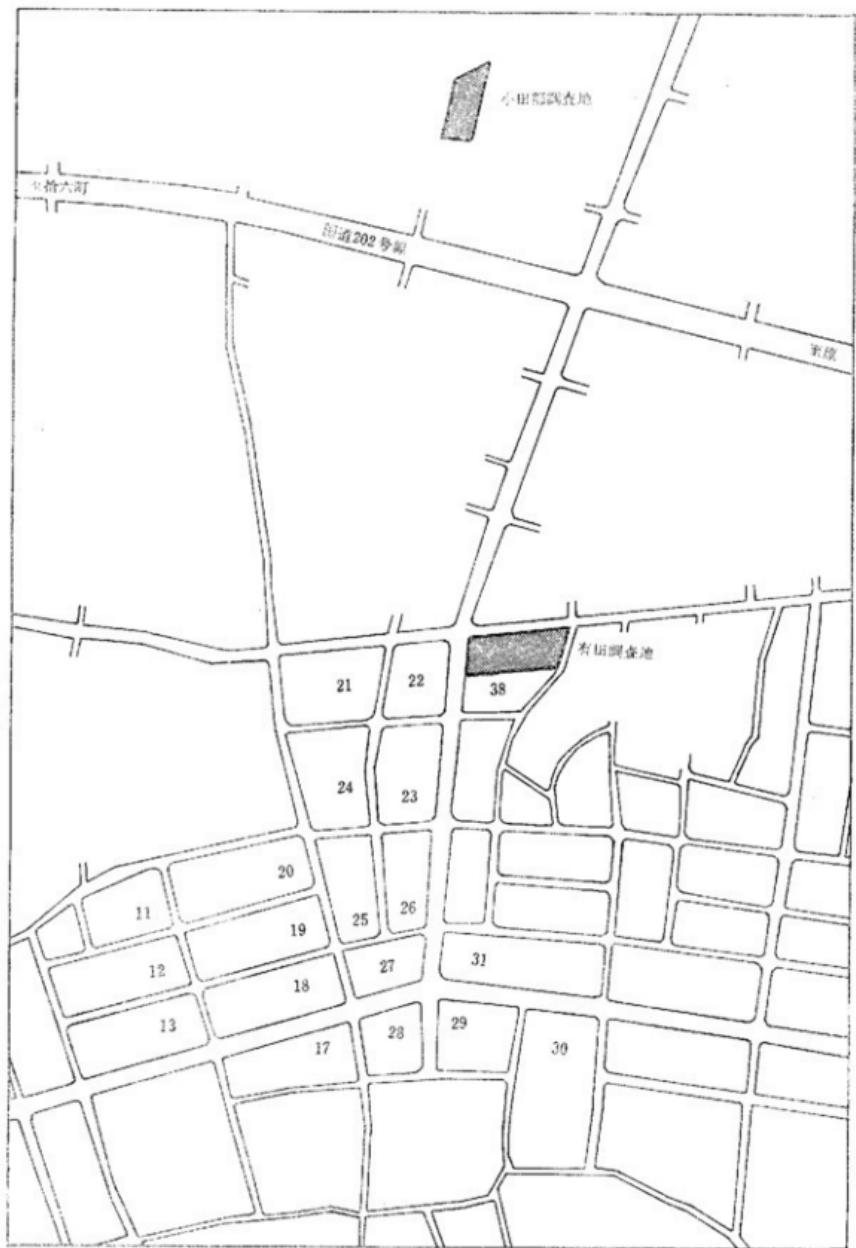
有田周辺航空写真（昭和50年撮影）



有田周辺航空写真（昭和21年米軍撮影）

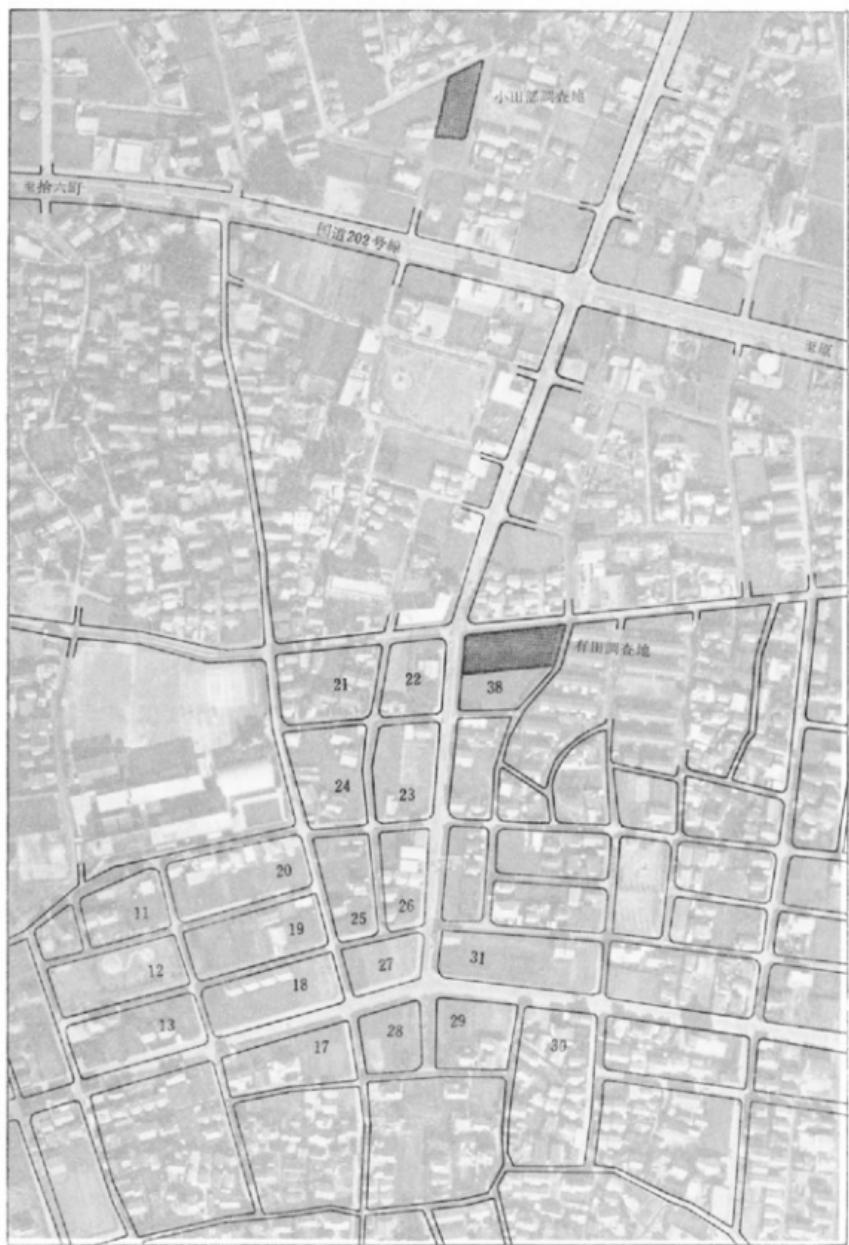


有田演習場一・二次測量地 航空写真（昭和43年撮影）





有田遺跡周辺航空写真（昭和50年撮影）



有田遺跡周辺航空写真（昭和50年撮影）



(1) 29街区(上), 31街区(下) 全景



(2) 29街区(下), 31街区(上) 全景



(1) 29街區 濟



(2) 29街區 濟內出土遺物



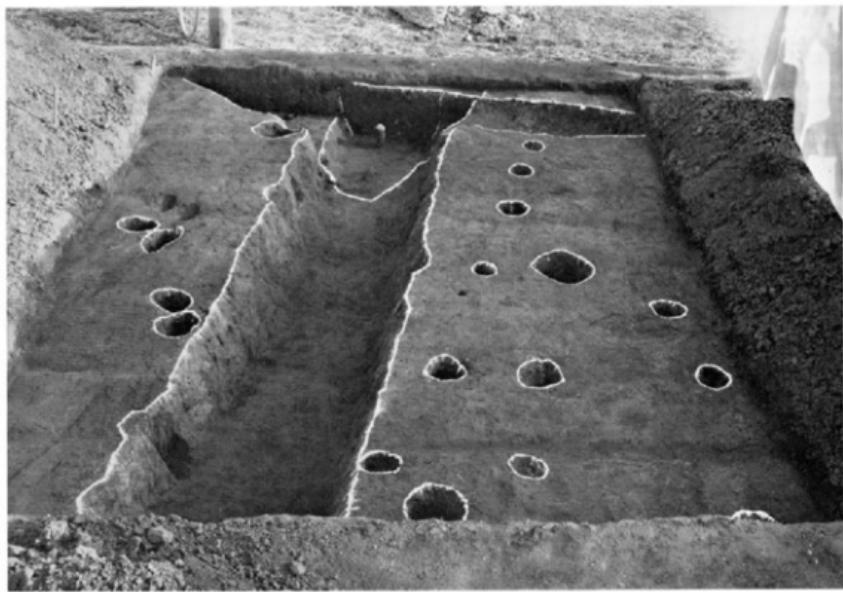
(1) 31街区 全景



(2) 31街区 袋状貯藏穴



(1) 31街区 溝



(2) 18街区 全景, N-S溝



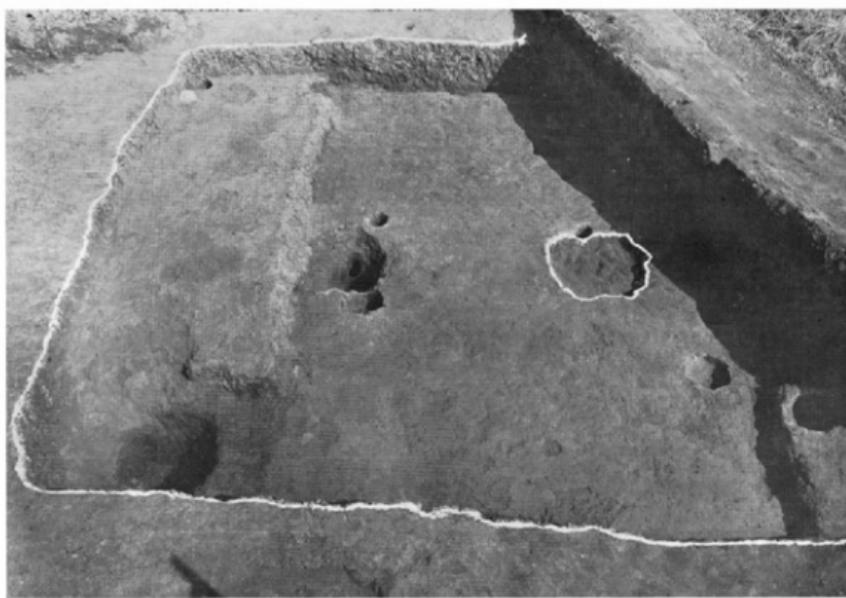
(1) 18街区 E-W溝



(2) 17街区 全景



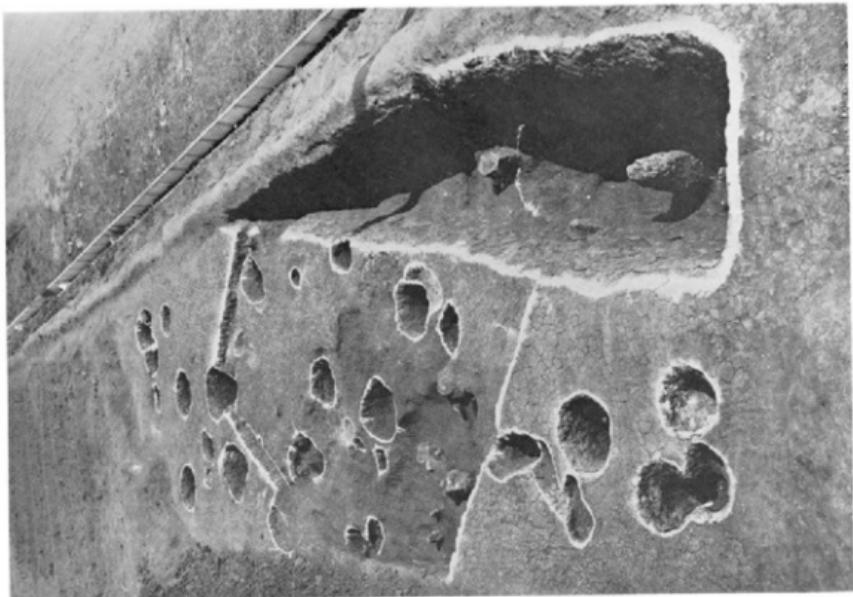
(1) 17街区 溝，住居址



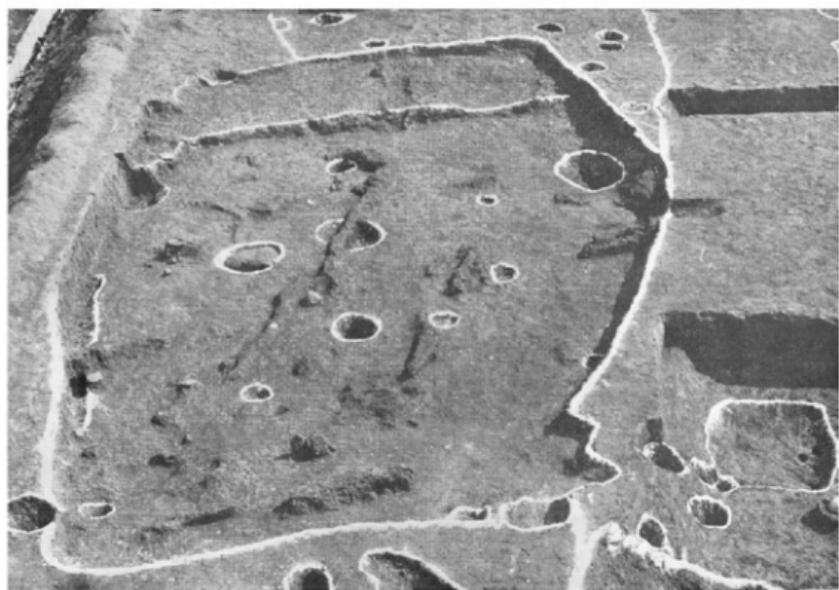
(2) 17街区，住居址



(1) 25街区 (上)・27街区 (下) 全景



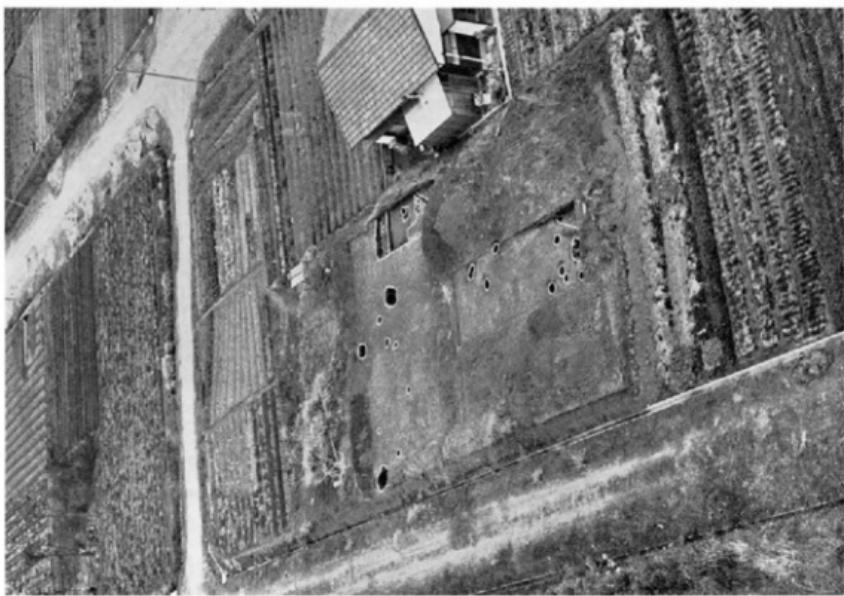
(2) 27街区 2号住居地



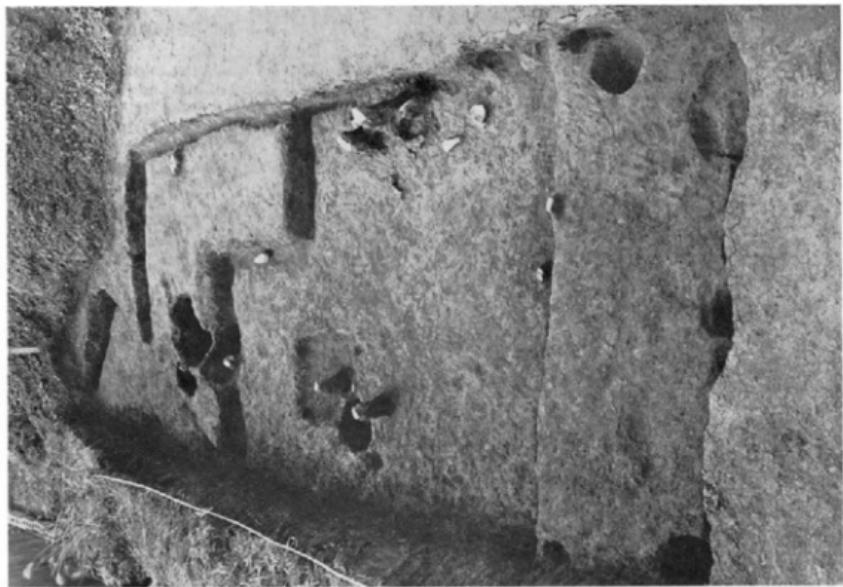
(1) 27街区 1号住居址



(2) 27街区 3号住居址



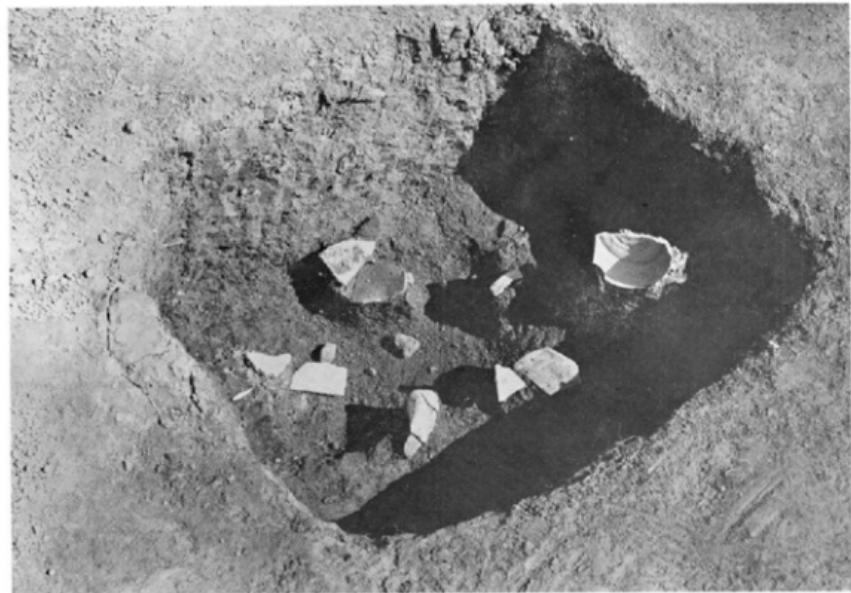
(1) 13街区 全景



(2) 13街区 住居址



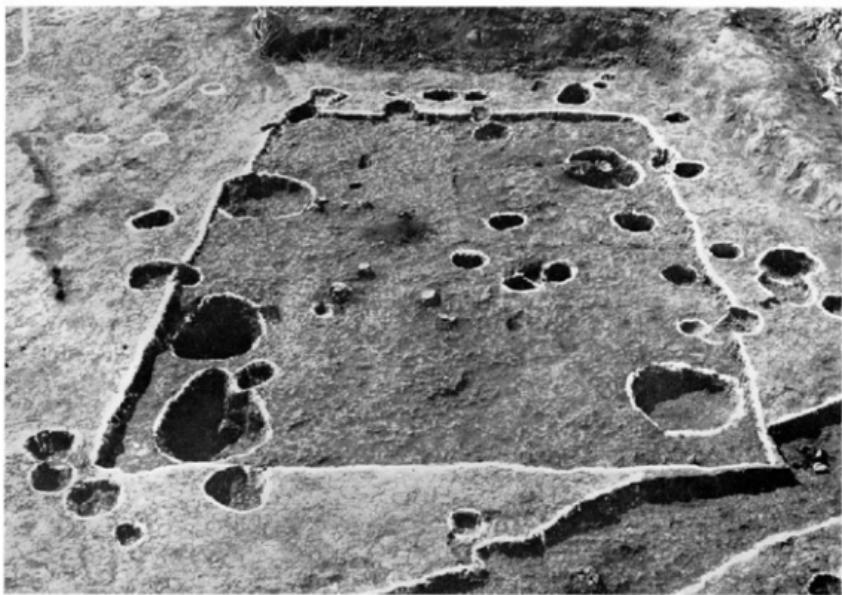
(1) 13街区 住居址



(2) 13街区 Pit 3



(1) 25街区 全景



(2) 25街区 住居址



有田遺跡一九七六年調査地遠景航空写真（昭和51年撮影）—矢印—



(1) 有田遺跡（1976年）調査前の状況



(2) 有田遺跡（1976年）近景



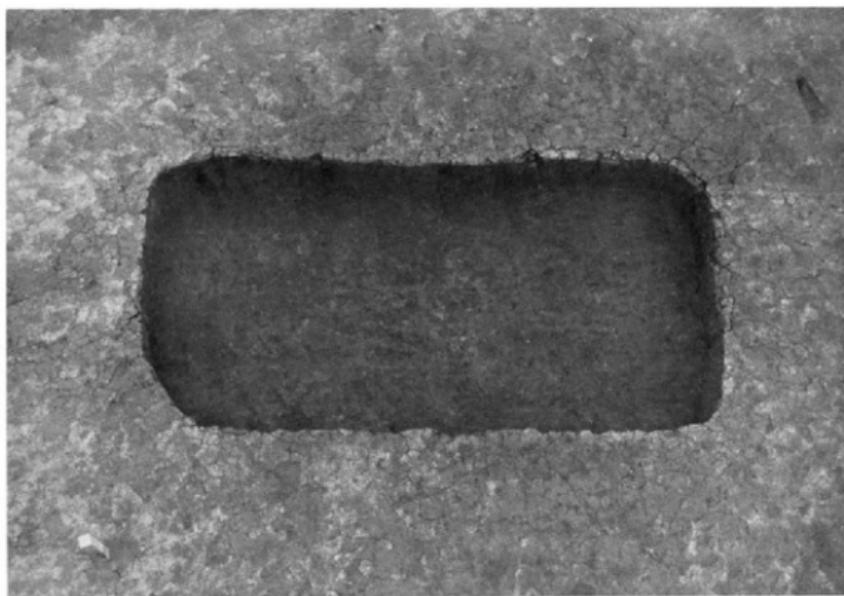
有田遺跡（一九七六年）全景



(1) 遺跡東半 南から



(2) 遺跡西半 東から



(1) 3号土壤



(2) 6号土壤



(1) 円形住居址群全景 南から



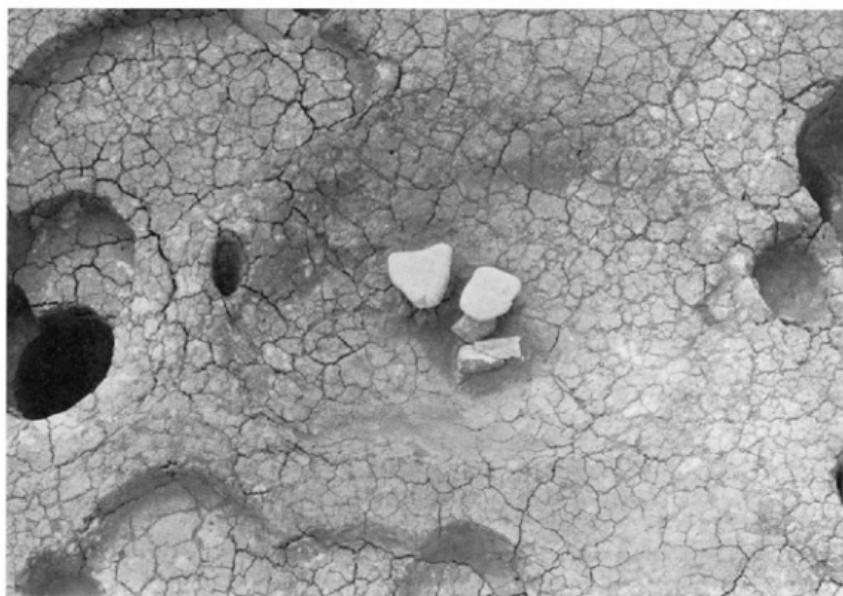
(2) 第1 pit群(住居址) 東から



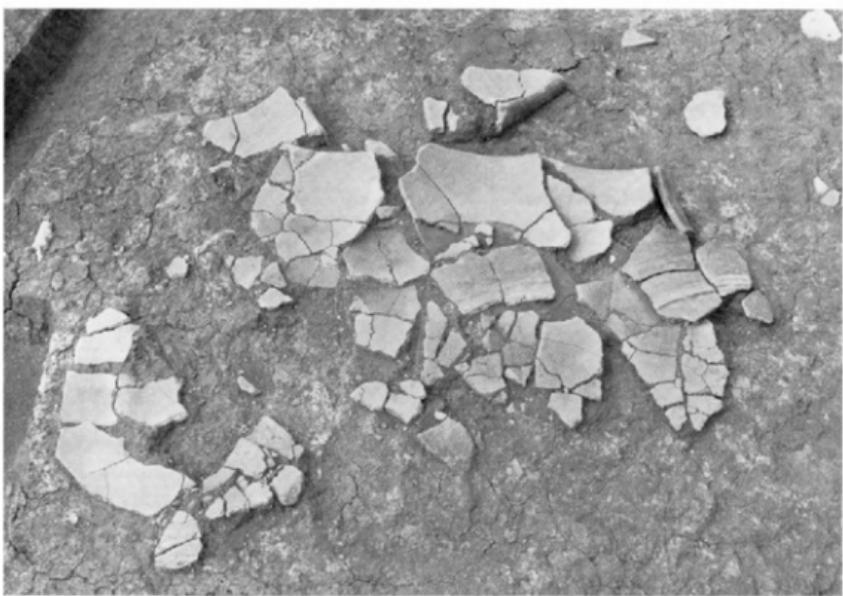
(1) 第1 pit群(上)、円形住居址(下) 東から



(2) 円形住居址 北から



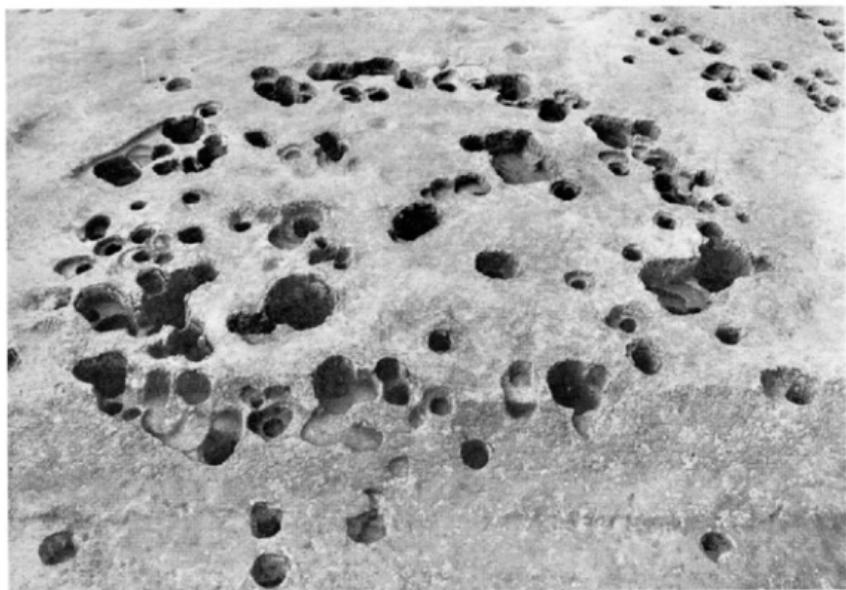
(1) 円形住居址内炉址



(2) 円形住居址内遺物出土状態



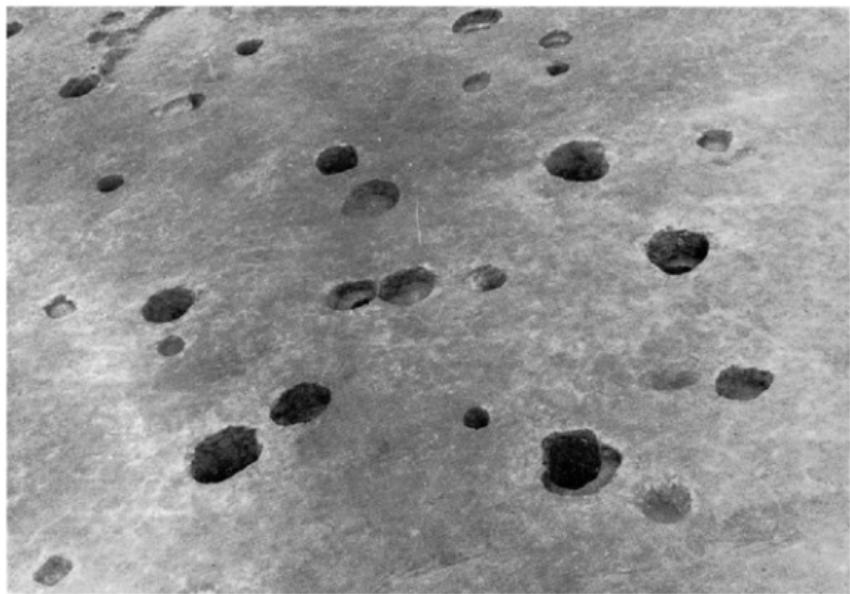
(1) 第3 pit群(下), 第4 pit群(上) 西から



(2) 第3 pit群 南から



(1) 第4 pit群 東から



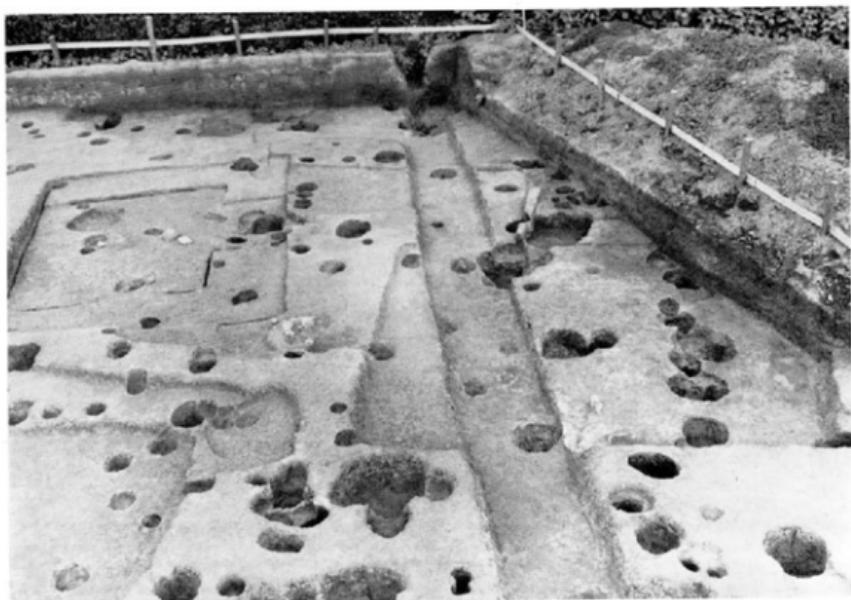
(2) 第8 pit群 東から



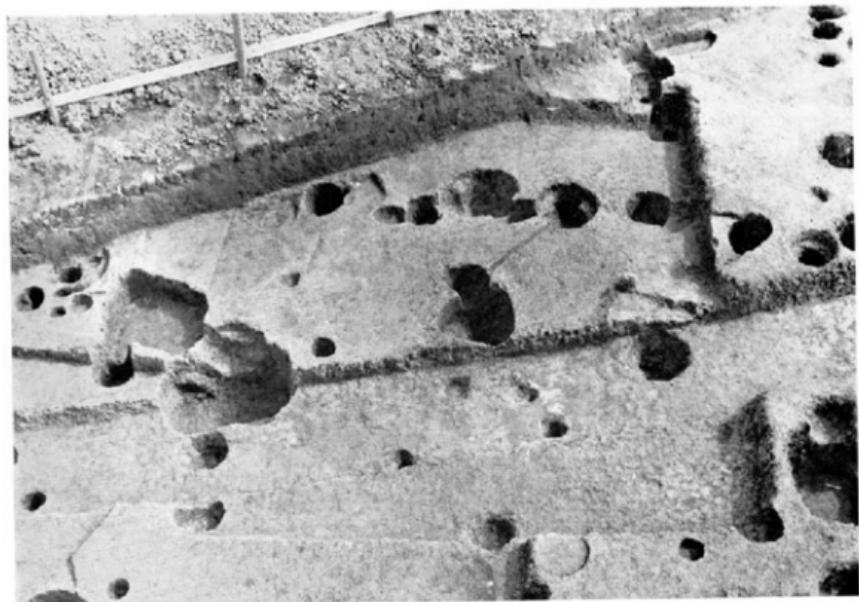
(1) 遺跡東南隅住居址群 西から



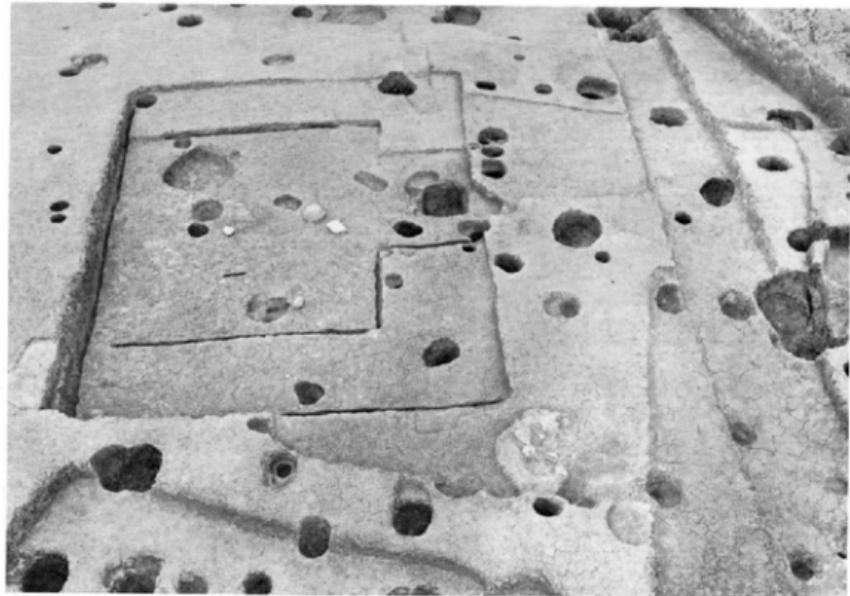
(2) 遺跡東南隅住居址群 北から



(1) 1, 7, 2号住居址 西から



(2) 2号住居址 北から



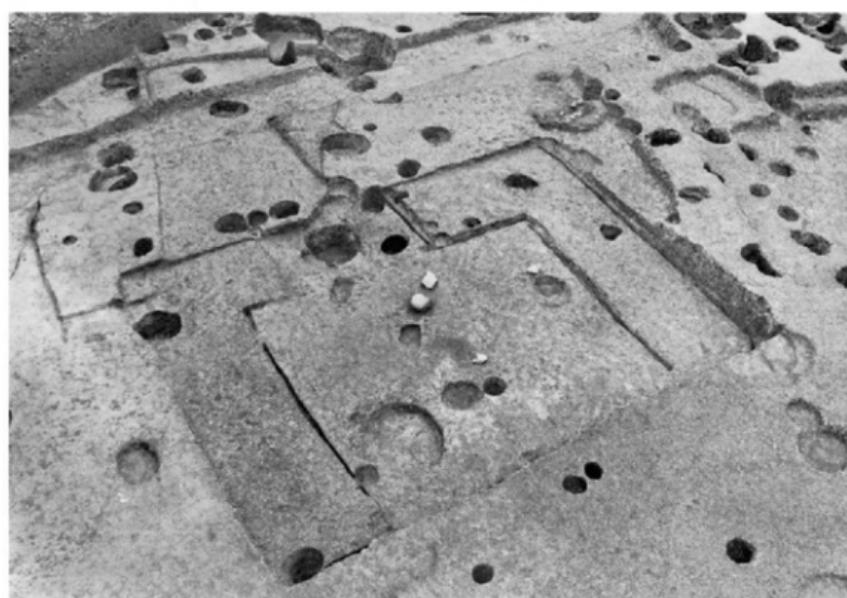
(1) 1, 7号住居址 西から



(2) 8号住居址 西から



(1) 1号住居址発掘途中



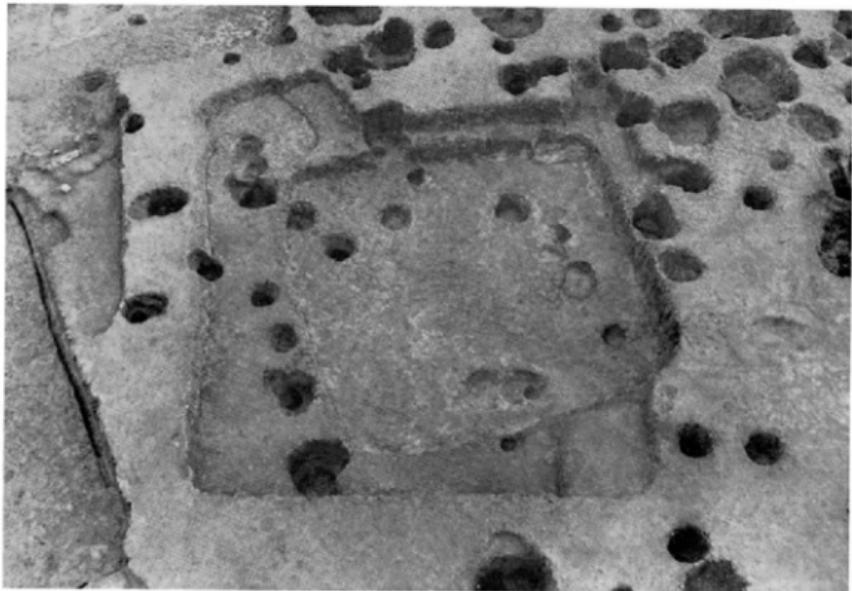
(2) 1号住居址発掘完了後



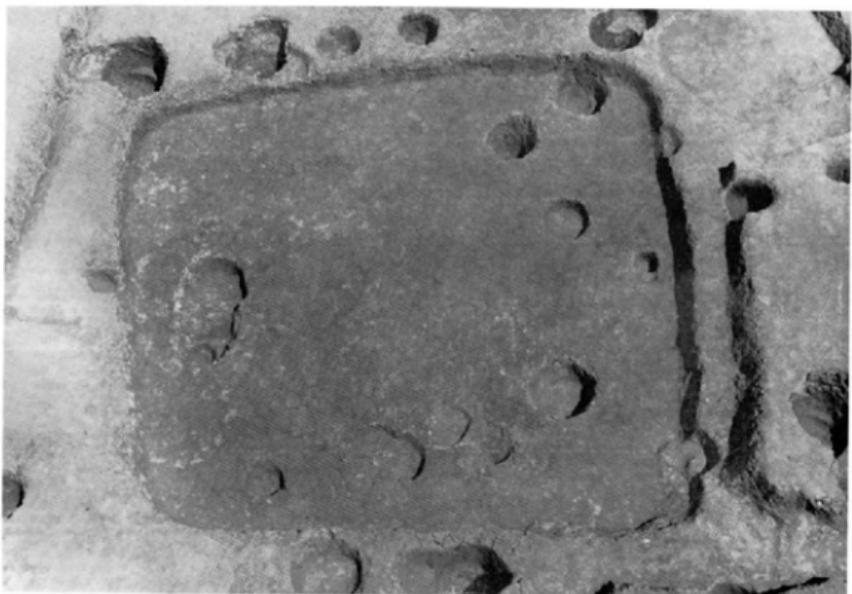
(1) 1号住居址内遺物出土状態



(2) 1号住居址内遺物出土状態（拡大）



(1) 3・4号住居址 北から



(2) 3号住居址 西から



(1) 2号住居址かまどの状態



(2) 3号住居址かまどの支脚



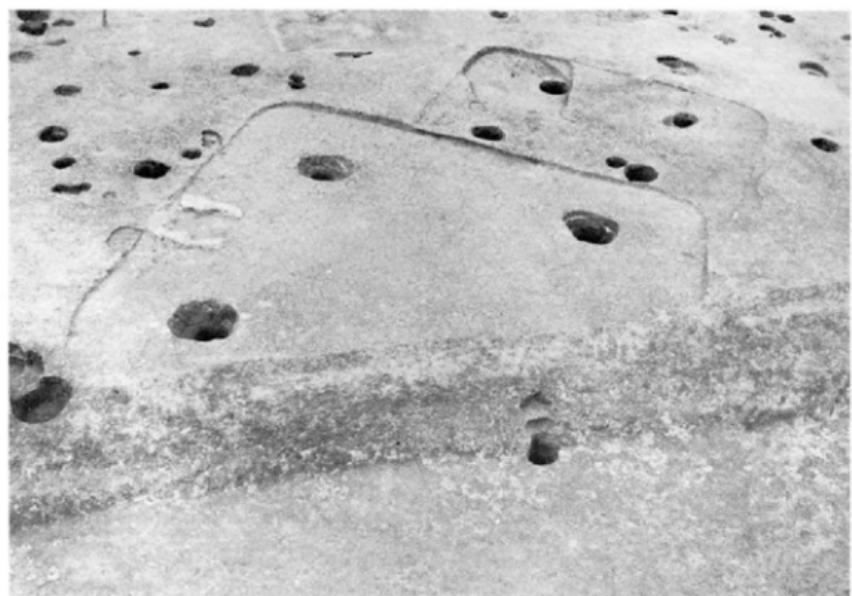
(3) 5号住居址かまどの状態



(4) 6号住居址かまどの状態



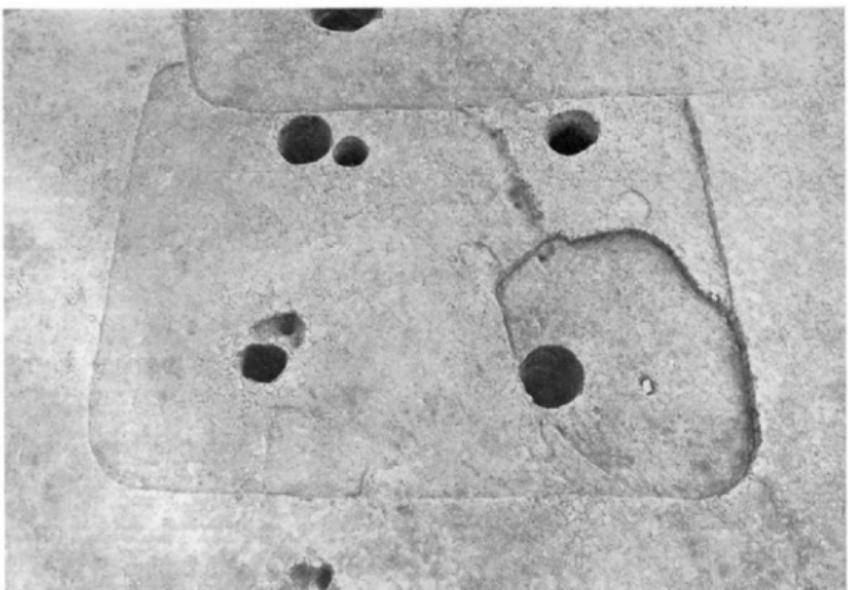
(1) 6号住居址状遺構 西から



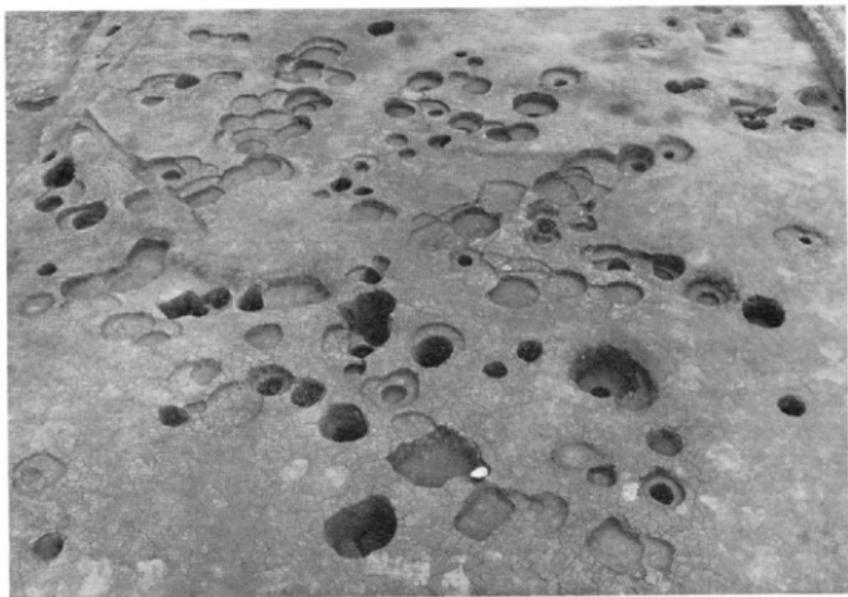
(2) 5, 9号住居址重複状態 南から



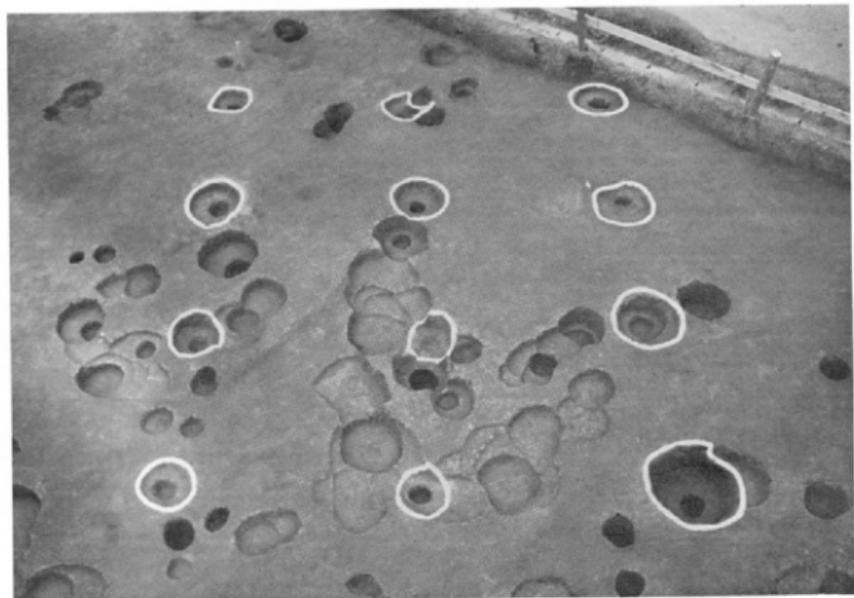
(1) 5号住居址 北から



(2) 9号住居址 西から



(1) 第5 pit群 東から



(2) 1号棟（第5 pit群内） 南から



(1) 3号棟(第6pit群内) 南から



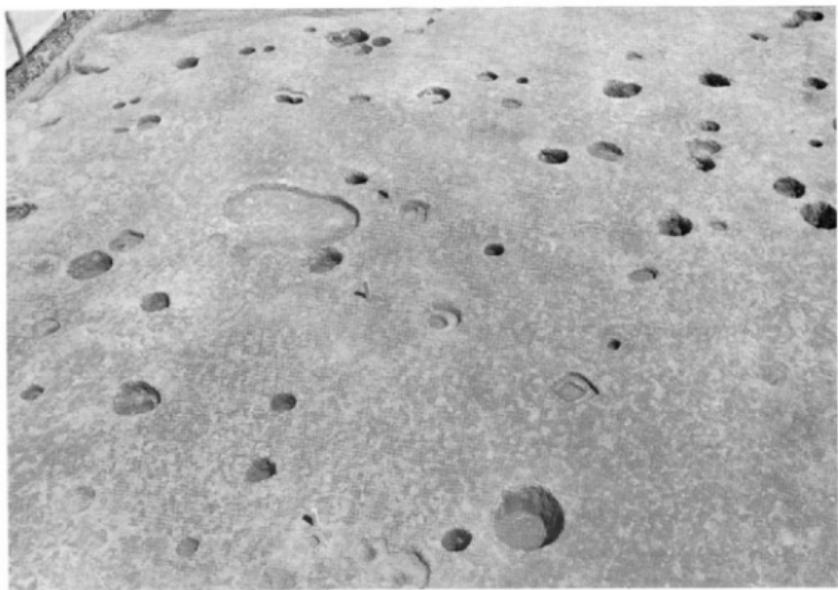
(2) 1号土壌(井戸)周辺pit群



(1) 第6 pit群 南から



(2) 2号棟(第2pit群内)



(1) 遺跡西南部遺構群 南から



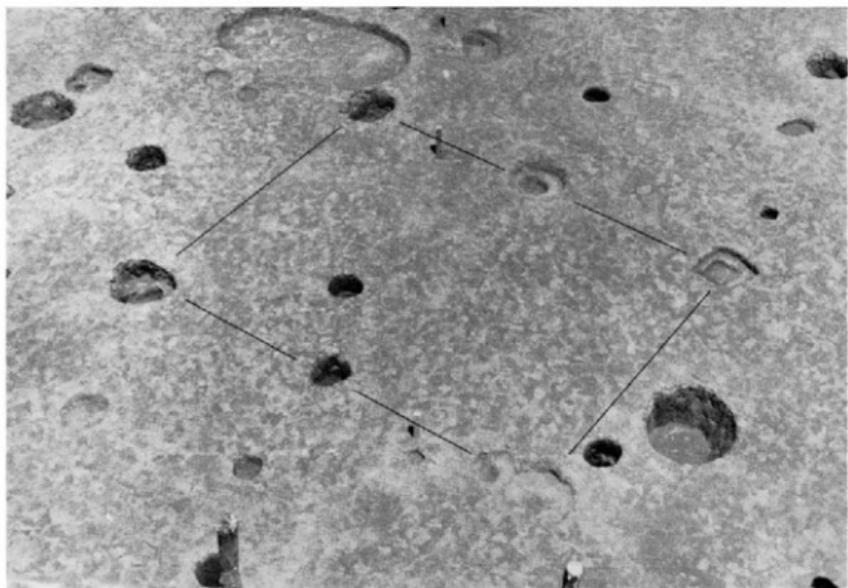
(2) 遺跡西南部遺構群 東から



(1) 遺跡西南部遺構群 北から



(2) 遺跡北東部遺構群、5号住居址



(1) 4号揃（遺跡西南部遺構群内）



(2) 第7 pit群



(1) 1号土壤(井戸)



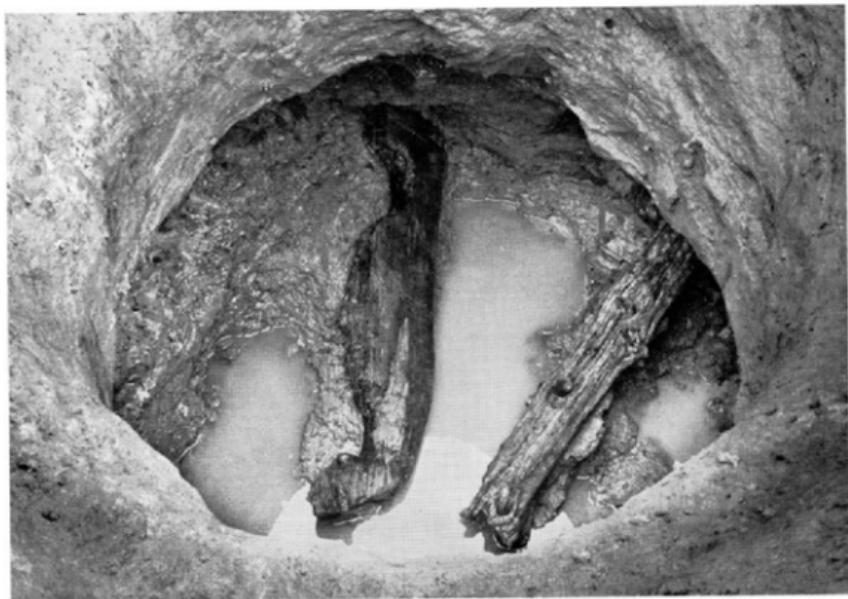
(2) 1号土壤(井戸) 壁体部分—黒線—



(1) 1号土壤(井戸) 遺物出土状態



(2) 1号土壤(井戸) 遺物出土状態



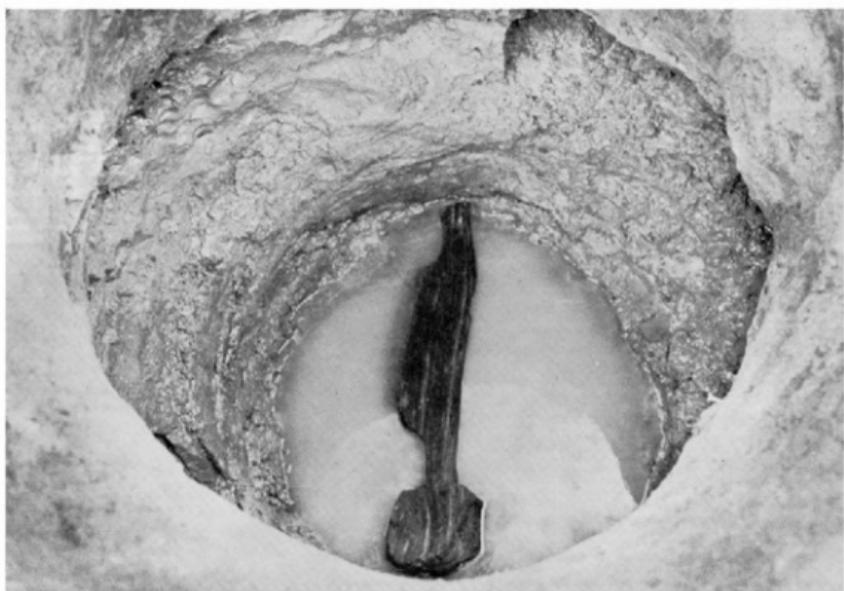
(1) 1号土壤(井戸) 井戸材出土状態



(2) 1号土壤(井戸) 壺出土状態



(3) 1号土壤(井戸) 壺出土状態



(1) 1号土塙(井戸) 井戸材出土状態



(2) 1号土塙(井戸) 井戸材、甕出土状態



(1) 10号土壤(井戸) 掘り方セクション



(2) 10号土壤(井戸) 第8層遺物出土状態



(1) 井戸上位遺物出土状態



(2) 井戸上位遺物出土状態



(1) 10号土壙(井戸)本体



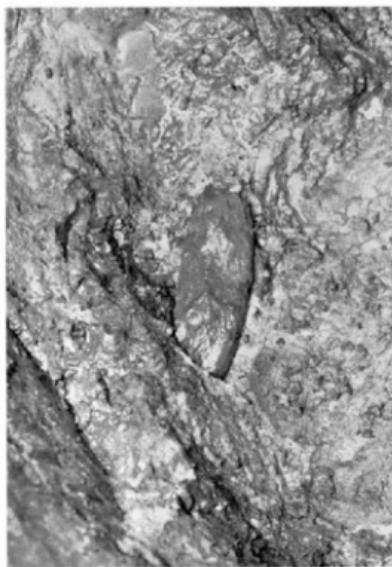
(2) 井戸本体裏込めの状態



(1) 井戸中位



(2) 井戸中位

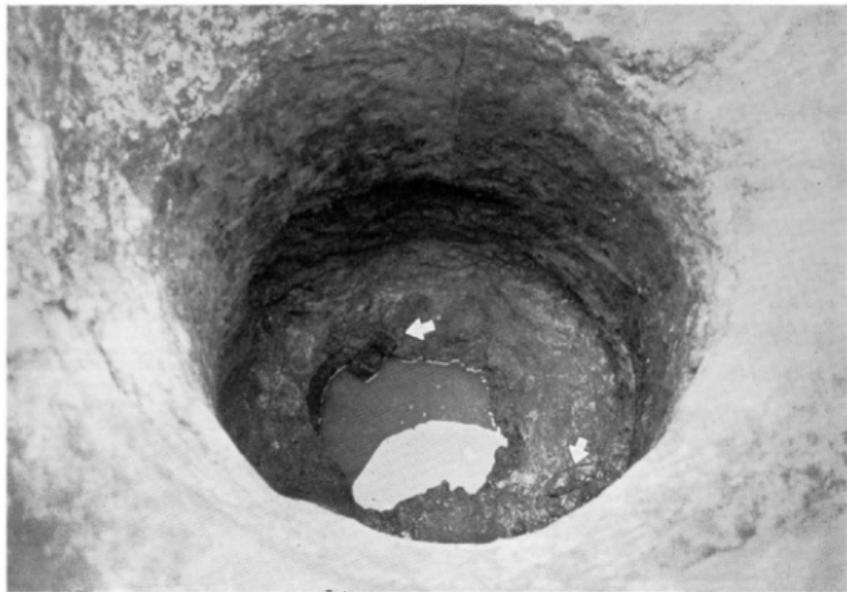


(3) 井戸底



(4) 井戸底

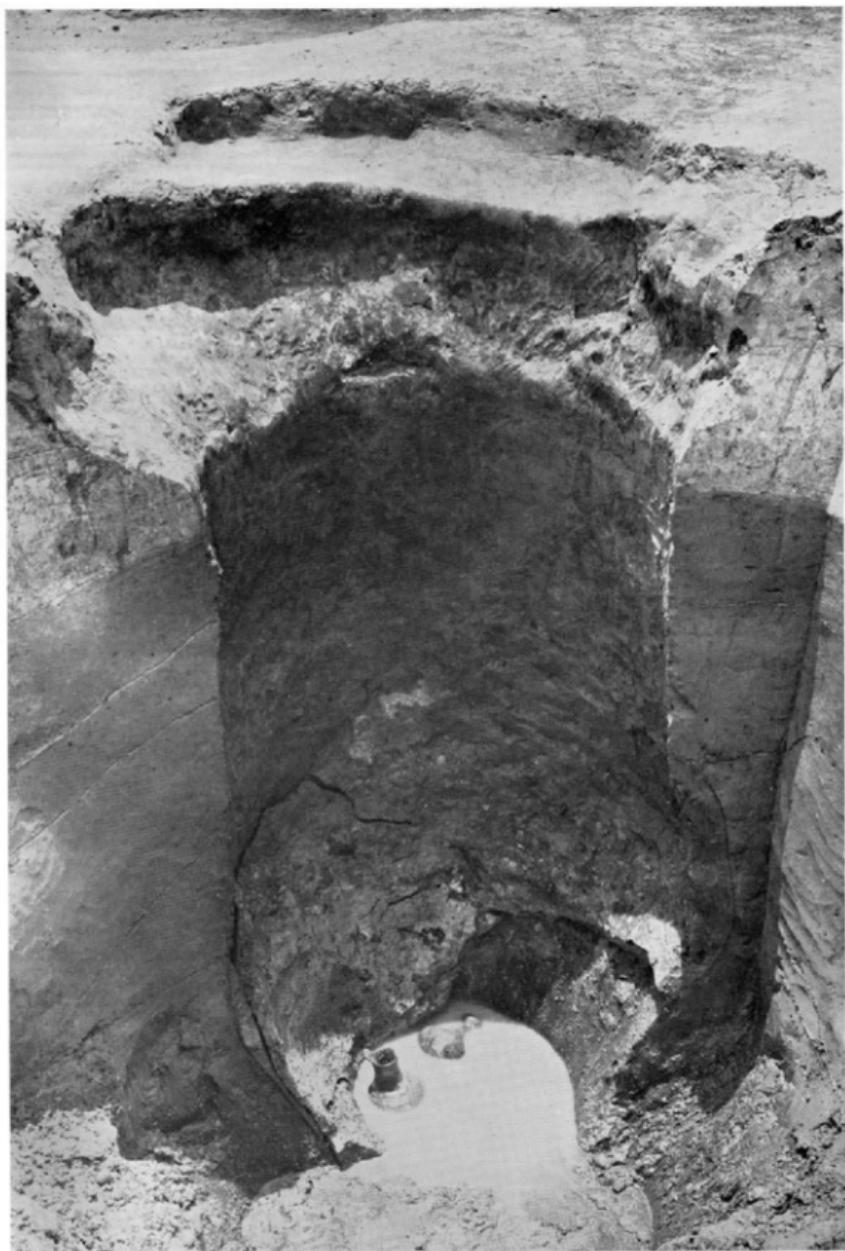
10号土器(井戸) 遺物出土状態



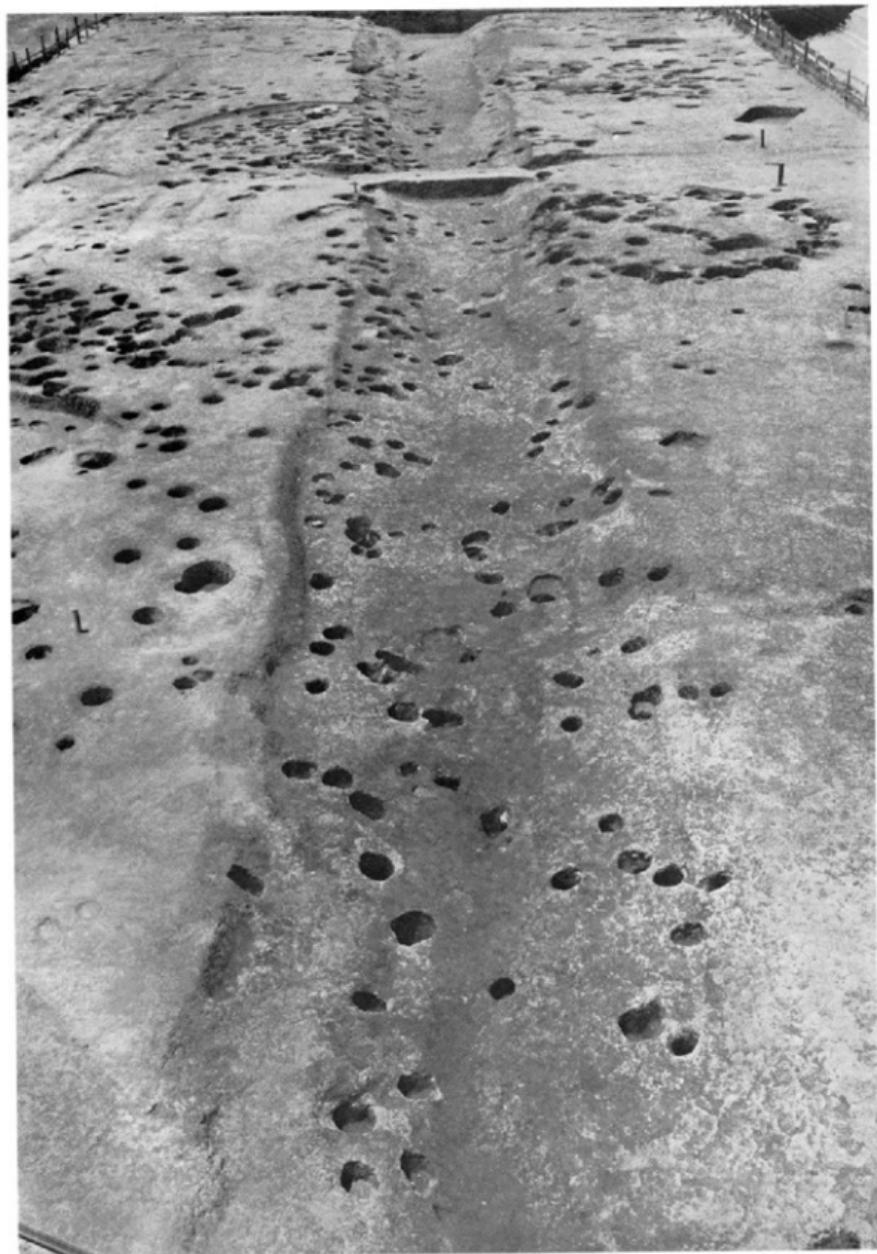
(1) 10号土塚（井戸）底の状態—矢印は遺物—



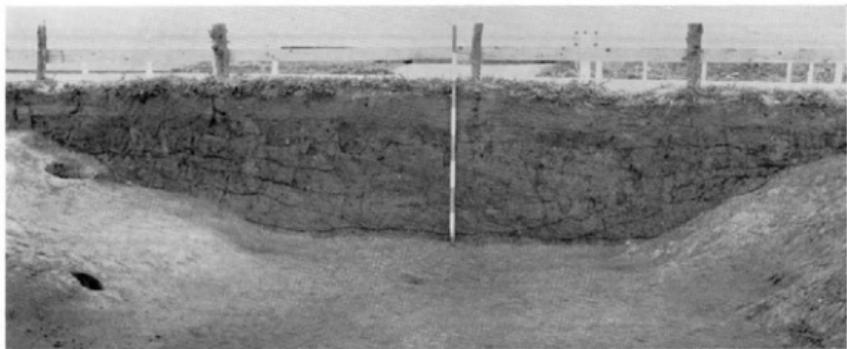
(2) 10号土塚（井戸）底 丹塗壺出土状態



10号土壤（井戸）縦割 北から



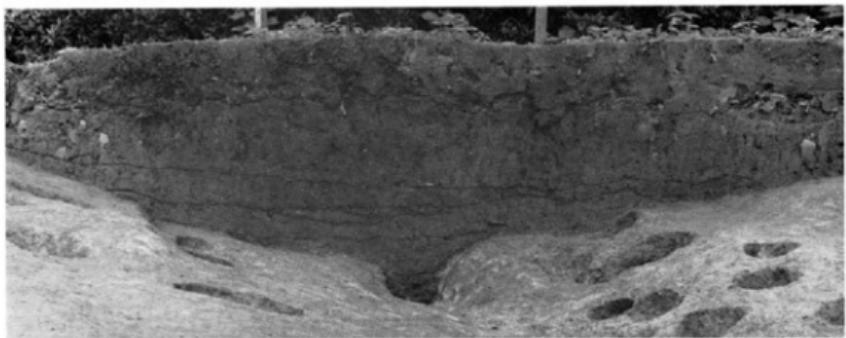
大溝 西から



(1) 西端部



(2) 中央部



(3) 東端部

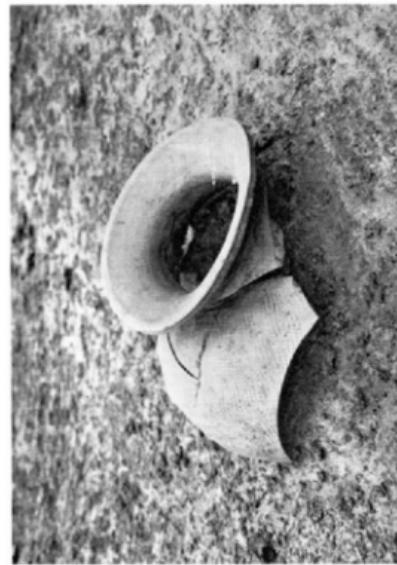
大溝セクション



(1)



(2)



(3)



(4)

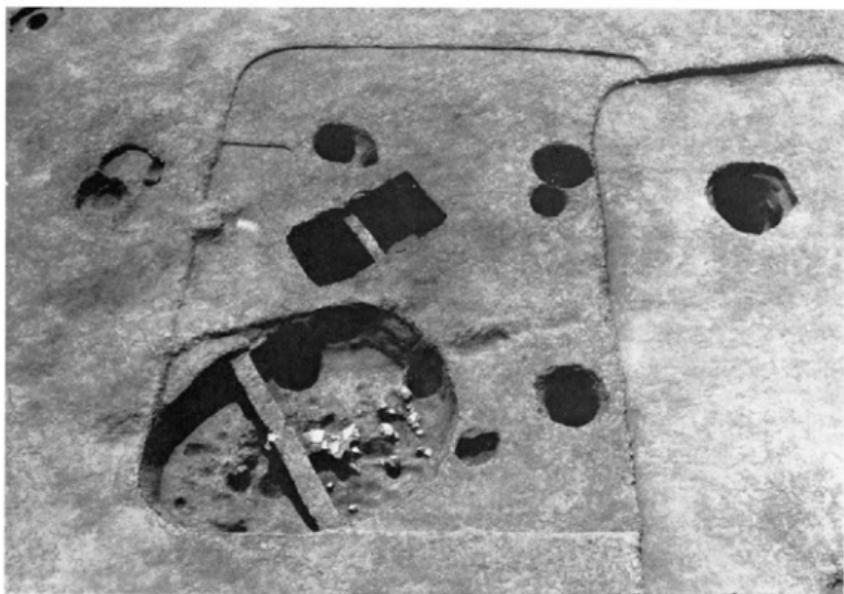
大廟內遺物出土狀態



(1) 1号小溝



(2) 2号小溝



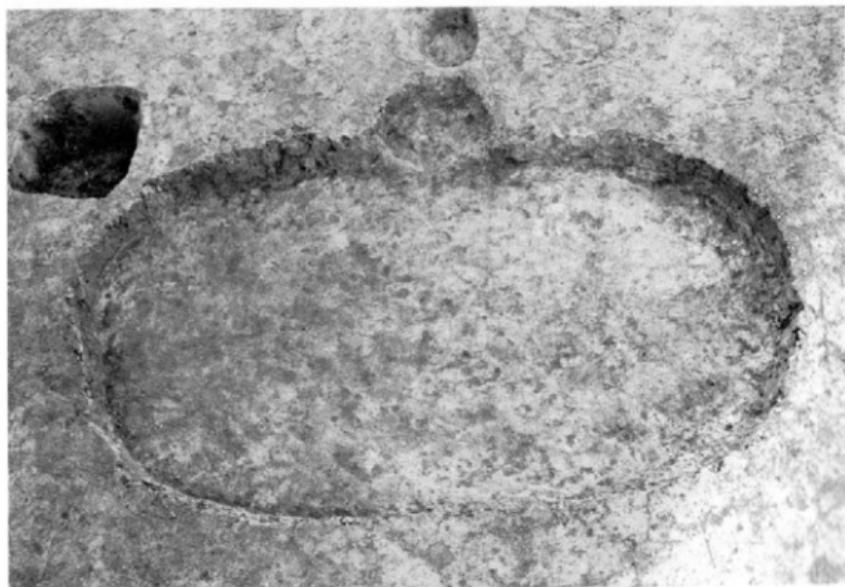
(1) 9号住居址内11, 12号土壤



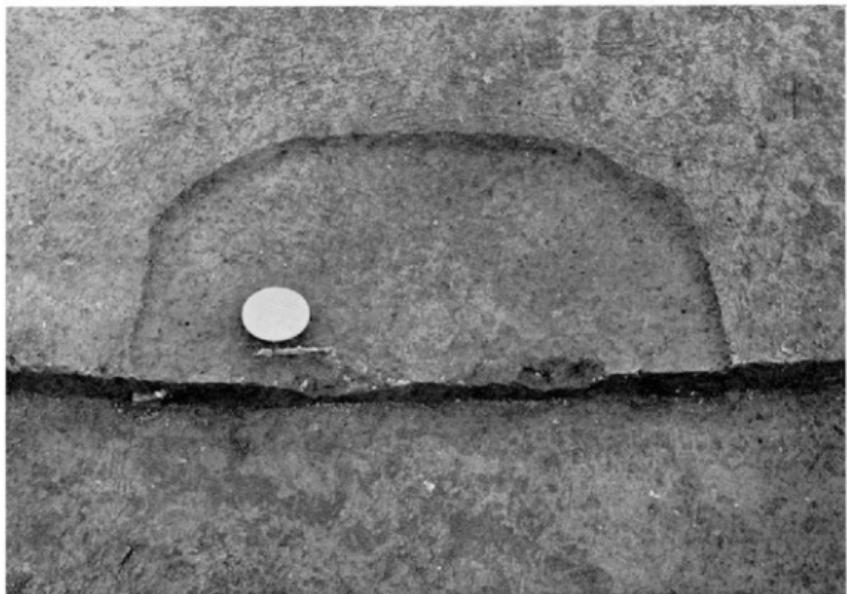
(2) 11号土壤



(1) 12号土壤



(2) 4号土壤



(1) 大溝内土塚墓



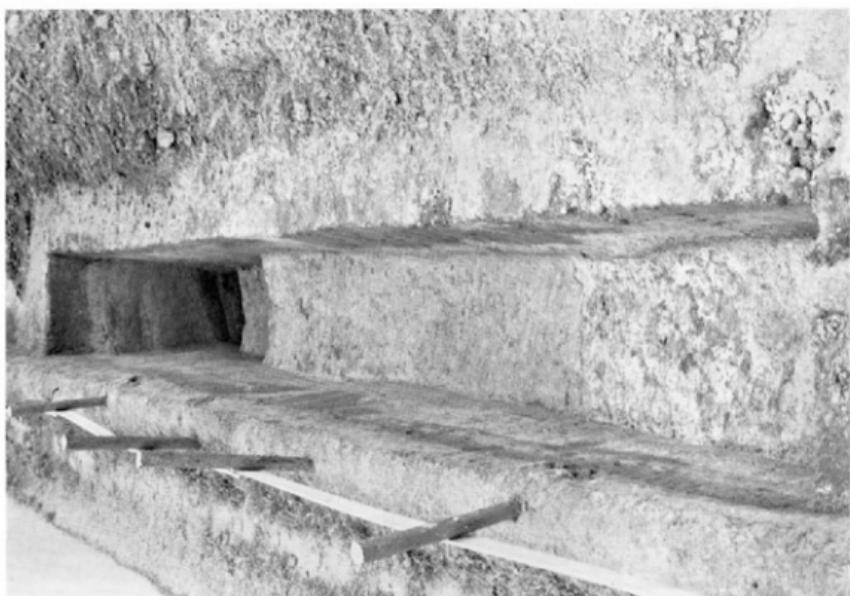
(2) 土塚墓副葬遺物の出土状態



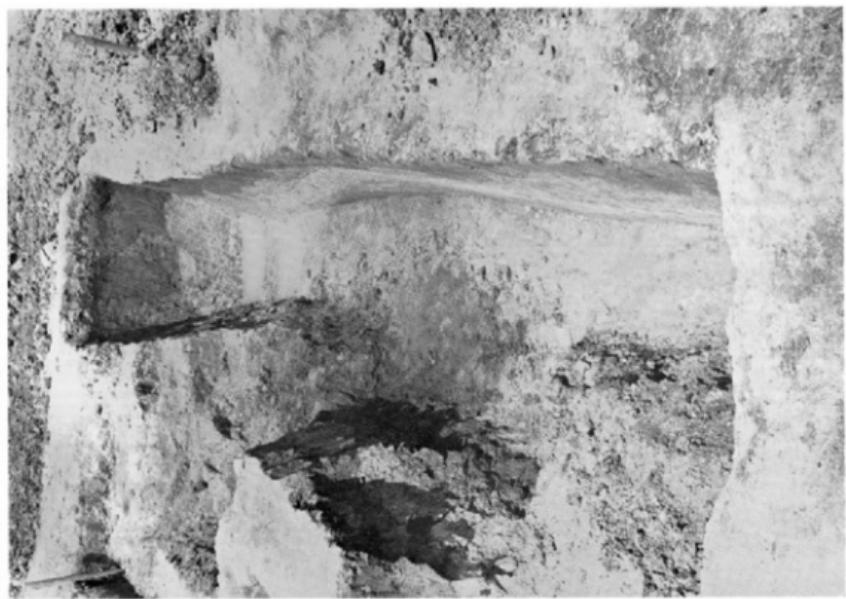
(1) 2号土壙（柱穴掘り方）



(2) 発掘作業風景（昭和51年5月）



(1) 第1スロット



(2) 第2スロット



(1) 第2トレンチ北壁土層



(2) 第2トレンチ北壁土層一部



(1) 有田地点(下), 小田部地点(上)現況(昭和52年撮影) 一矢印一



(2) 有田遺跡1977年調査予定地 一矢印一



(1) 有田地区1977年調査予定地 一矢印一



(2) 小田部地区1977年調査予定地 一矢印一

有田周辺遺跡調査概報

福岡市埋蔵文化財調査報告書第43集

1977年（昭和52年）3月31日

発 行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1-7-23

刊 刷 株式会社 チューノフ

福岡市博多区東比恵2-9-1

有田周辺遺跡調査概報

福岡市埋蔵文化財調査報告書第43集